

くまもと「親の学び」プログラム

～子育ては親育ち～

ステップ(中高生期)編



熊本県教育委員会

ステップ (中高生期) 編プログラム一覧



§	プログラム 番号	プログラム名	実施 時間	キーワード	形態	掲載 ページ
セクション 1	1	リラックスタイム ～力をぬいて～	2分	リラックス	全体 o r グループ	P15
	2	わたしはあなたのががみ ～動きを合わせて～	3分	しっかり見る コミュニケーション	全体 o r グループ	P16
	3	あったか家族川柳 ～言葉に込められた思い～	5分	家族のかかわり	全体	P17
	4	かさなったら、パン！ ～心をあわせて～	5分	過程が大事	全体 o r グループ	P20
	5	箱の中は？ ～正確に伝えよう～	5分	適切に話すこと 正確に聴くこと	全体	P21
	6	連想ゲーム ～考えを広げて～	5分	イメージの多様性	全体 o r グループ	P22
	7	見えるものしりとり ～しっかり見て～	5分	しっかり見る	全体 o r グループ	P23
	8	クイズ王になろう ～もっと知って子どものこと～	5分	親としての知識	全体	P24
セクション 2	9	子育てすごろく ～中高 Version～	20分	コミュニケーション	グループ	P45
	10	つながりビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～	20分	保護者のつながり	全体	P48
	11	サイコロトーク ～聴かせて、あなたの考え～	20分	多様な考え	グループ	P52
	12	プラスの表現 ～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～	20分	多様な見方・考え方	グループ +全体	P57
	13	メッセージ for You ～伝えよう親の気持ち～	20分	伝えたいこと	グループ o r 全体	P60
	14	ファミリーアクション Yes o r No ～あいさつ、手伝いどうしてる～	20分	あいさつ、手伝い	全体+ グループ	P63
セクション 3	15	ちょっと待ってよケータイ ～わが家の情報モラル～	25分	携帯電話とルール	グループ	P67
	16	やってみよう、聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～	25分	わが家の聞き方	ペア+ グループ	P72
	17	未来予想S ～10年後の子どもとわたし～	25分	10年後のわたし	グループ	P78
	18	子どもの夢サポート ～進路選択と親のかかわり～	30分	子どもの進路	グループ	P83
	19	子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～	30分	悩みと相談相手	グループ	P87
	20	感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～	30分	子どもの気持ち	グループ +個人	P91
	21	親の役割3か条 ～親の目・子の目～	30分	親の役割3か条	個人+ グループ	P97
	22	聞いて、聞いて、わたしの悩み ～子どもの異性とのつきあい方～	45分	悩みの共有	グループ	P102

はじめに

子どもの健やかな成長は、すべての親の願いであり、また、社会全体の願いでもあります。

しかし、核家族化や地縁的なつながりの希薄化、また、携帯電話やインターネットの利用をめぐるネットいじめや携帯電話依存症等の問題、さらに、子どもの基本的な生活習慣の育成に係る問題等、新たな家庭教育に関する課題も数多く生じてきております。

そのような中、保護者が、子育ての悩みや喜びなどを気軽に話せる相手がいなかったり、子どもの発達段階や今日的な課題等を含め、家庭教育について保護者が学ぶ機会が少なかったり、また、研修に積極的に参加する保護者が固定化しつつあるという実態もあります。

そこで、保護者が集まる様々な機会に、つながりをつくるきっかけとなるプログラムや今日的課題について考えるプログラムが必要だと考え、平成21年度から「くまもと『親の学び』プログラム」の作成に取り組み、その普及に力を入れているところです。プログラムは、対象となる保護者ごとに、スタート（乳幼児期）編、スマイル（小学生期）編、そして、このステップ（中高生期）編の3種類を作成しました。

この「くまもと『親の学び』プログラム」ステップ（中高生期）編は、3つのセクションで構成しています。

セクション1は、自分自身や子どもとの関わりに「気付く・振り返る」きっかけプログラムとし、セクション2は、保護者同士の横のつながりを意識した「広げる・つながる」コミュニケーションプログラム、さらに、セクション3では、子育てについての思いや親子のかかわりを考える「深める・見つめる」親の役割プログラムとしました。中学生・高校生の子どもをもつ保護者の集まる機会に幅広く活用できるように内容・方法等を工夫しています。

本編は、中高生の子どもをもつ保護者が主な対象ではあるものの、乳幼児、就学前の園児や、小学生の子どもをもつ保護者の方にも十分活用できる内容になっています。

ぜひ、それぞれの立場から、身近な「親の学び」の場を広げ、子どもの健やかな成長につながるよう、本プログラムを積極的に御活用いただきますようお願いいたします。

平成24年3月

熊本県教育委員会

くまもと「親の学び」プログラム ～ステップ（中高生期）編～

も く じ

I 基本編	・・・ P1
1 くまもと「親の学び」プログラムステップ（中高生期）編とは？	・・・ P2
2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？	・・・ P3
3 進行役（ファシリテーター）の役割	・・・ P4
4 「親の学び」講座の組み立て方	・・・ P5
5 プログラムの活用場面	・・・ P7
6 プログラムの特徴や内容	・・・ P8
★ スタート（乳幼児期）編、スマイル（小学生期）編のプログラム一覧	・・・ P12
II 展開編	・・・ P13
セクション1	・・・ P14
●プログラム1 リラックスタイム～力をぬいて～	・・・ P15
●プログラム2 わたしはあなたのががみ ～動きを合わせて～	・・・ P16
●プログラム3 あったか家族川柳 ～言葉に込められた思い～	・・・ P17
●プログラム4 かさなったら、パン！～心をあわせて～	・・・ P20
●プログラム5 箱の中は？～正確に伝えよう～	・・・ P21
●プログラム6 連想ゲーム～考えを広げて～	・・・ P22
●プログラム7 見えるものしりとり～しっかり見て～	・・・ P23
●プログラム8 クイズ王になろう ～もっと知って子どものこと～	・・・ P24
セクション2	・・・ P44
●プログラム9 子育てすごろく～中高Version～	・・・ P45
●プログラム10 つながりビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～	・・・ P48
●プログラム11 サイコロトーク～聴かせて、あなたの考え～	・・・ P52
●プログラム12 プラスの表現 ～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～	・・・ P57

●プログラム13	メッセージ for You ～伝えよう親の気持ち～	・・・ P60
●プログラム14	ファミリーアクション、Yes or No ～あいさつ、手伝いどうしてる～	・・・ P63
セクション3		・・・ P66
●プログラム15	ちょっと待ってよケータイ ～わが家の情報モラル～	・・・ P67
●プログラム16	やってみよう、聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～	・・・ P72
●プログラム17	未来予想S～10年後の子どもとわたし～	・・・ P78
●プログラム18	子どもの夢サポート ～進路選択と親のかかわり～	・・・ P83
●プログラム19	子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～	・・・ P87
●プログラム20	感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～	・・・ P91
●プログラム21	親の役割3か条～親の目・子の目～	・・・ P97
●プログラム22	聞いて、聞いて、わたしの悩み ～子どもの異性とのつきあい方～	・・・ P102
○くまもと「親の学び」プログラム～子育ては親育ち～		・・・ P107
	ステップ（中高生期）編 作成検討委員名簿	

★平成23年度「親の学び」講座 実践事例の紹介

※「親の学び」講座とは、

「親の学び」プログラムを活用した講座の通称です。

※実践事例は、熊本県教育委員会ホームページに掲載中です。

【熊本県教育委員会】→【家庭教育】→【くまもと「親の学び」プログラム】

I 基本編



1 くまもと「親の学び」プログラム

ステップ（中高生期）編とは？

くまもと「親の学び」プログラムステップ（中高生期）編は、主に、中学生・高校生の子どもをもつ保護者を対象とした参加体験型の家庭教育講座（「親の学び」講座）を進行するための解説書です。

「親の学び」講座では、中学、高校の教職員（管理職の先生を始め、学級担任や養護教諭、部活動指導者などすべての先生方）やPTA役員の皆さん、家庭教育支援や子育て支援にかかわっている方々が、進行役（ファシリテーター）とすることができます。進行役は、一方通行の講義をするのではなく、伝えたいねらいやメッセージを明確にしつつ、参加者の気づきをサポートし、参加者と一緒に講座をつくりあげていく役割があります。

本解説書では、プログラムの基本となる展開例等を示していますので、参加者の人数や講座の時間、保護者の要望に応じて、アレンジして活用してください。また、スタート（乳幼児期）編、スマイル（小学生期）編の内容と組合せたり、関連をもたせたりすることもできます。

この「親の学び」講座を通して、子育て中の保護者が自信をもって、健やかな子どもを育てていこうという意欲を高め、親として大切なことを学ぶ一つの手がかりとなれば幸いです。

それぞれの機会に、このプログラムを活用していただき感想等をお寄せください。必要に応じて適宜増補したり、実践を紹介したりし、より充実した解説書にしていきます。



「キャンペーンロゴマーク」
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のよ
うに健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む
家庭、地域のまなざしを表現しています。
安富 勝弘さん(熊本市)の作品

2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？

「親の学び」講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。

参加体験型学習では、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方向から聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり話し合ったりすることを通して、今まで気付かなかったことに気付いたり、大切なことを再認識したりすることができます。

参加体験型学習を組み立てるときには、次の3つのポイントを確認することが大切です。



☆参加体験型学習における3つのポイント

ポイント1 「一人一人が主役」という主体的・参加的な学習

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、言葉や文字で表現することによって、これまで自分が気付かなかったことに気付いたり、これまでの認識について、改めて大切であることを再確認したりすることができます。

そのためには、一人一人が参加しやすい雰囲気や発言しやすい雰囲気作りが必要になります。参加体験型学習を苦手としている参加者には、「無理せず、発言できるときに発言する。」「他の方の考え等を聞いて、感じたことがあったら教えてください。」というようなスタンスで気軽に参加してもらうように配慮することが大切です。

ポイント2 「互いに学び合う」という協力的な学習

グループ内で意見を出し合ったり、全体で考えたことやグループで話題になったことを紹介し合ったりすることを通して、これまでに気付かなかった多様な視点や考え方があることに気付いたり、共感したりすることができます。

そのためには、進行役は、参加者相互の意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、多様な考えを引き出すような声かけを行ったりすることが大切になります。「参加者一人一人の意見によって、他の参加者の学びにつながっていく」という意識を、参加者の皆さんにもってもらえることが大切です。そうすることによって、自分と違う価値観をもつ人の意見も受け入れやすくなるからです。

ポイント3 具体的な活動を通して考える体験的な学習

具体的な活動（すごろくやサイコロを使っての活動や付箋紙に書き出し分類する活動等）や体験（ロールプレイやシミュレーション、ディスカッション等）をすることを通して、問題に気付いたりその解決方法を探求したりしようとするすることができます。活動（体験）すること自体が目的ではなく、その活動（体験）から感じたことを話し合い、生活と結びつけて考える過程が大切です。

そうすることによって、今まで気付かなかったことに気付いたり大切なことを再認識したりするなど、実践へと向けた気持ちをもつことができます。

3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、学習を進める「進行役」（ファシリテーターとも言われる場合がある）の役目が大切です。進行役は、参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が、「気付き」を得て何かを学ぶことを助けることがその役目です。講座の進行を通して、進行役自身も「学ぼう」という気持ちをもつことが大事です。

進行役に不安をもっている場合は、「二人で進行役をする」「短時間の講座や少人数の講座等から進行役を経験する」と、不安が軽くなります。



☆進行役に求められること

(1) 雰囲気づくり

- ・進行役は、笑顔が大切です。自信をもって、はっきりした声で、ゆっくりと話しましょう。
- ・話し合いの前に「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は気が楽になり発言しやすく感じます。
- ・発言は、話せる範囲で話すとよいことを伝えましょう。参加者は安心して参加できます。
- ・参加者一人一人の人権が尊重され、安心して講座に参加できる場としましょう。

(2) 主体性の尊重

- ・参加者の意見を受けとめ、よく聞き、明るく丁寧な言葉で対応する等、参加者一人一人を大切にしましょう。また、進行役は人権尊重の視点を常にもって進行することが大切です。気になる発言等があった場合には、「なぜそう思うのか」「自分は〇〇と思う」と、問いかけることも必要です。
- ・参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が気付きを得たり「なるほど」と再確認できたりすることを大切にしましょう。
- ・進行役自身の考えを押しついたり参加者の発言を批判したりしないことが大事です。

(3) 流れの調整

①参加者に合わせた進行

- ・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
- ・参加者の様子を見て、予定より時間が必要と判断した場合には、時間を延ばしましょう。用意した内容の全てを行う必要はありません。（時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするかを事前に考えておくと、その状況になったときに慌てなくてすみます。）

②テーマに沿った進行

- ・話題がテーマからそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに沿った話題に戻すように心がけましょう。

4 「親の学び」講座の組み立て方

「親の学び」講座を開催するとき、以下のことを考えましょう。



いつ？
(講座開催の機会)

★講座の開催については、本編
「5プログラムの活用場面」
を参考にしてください。
いろいろなところで開催する
ことができます。

①「親の学び」講座を中心に開催する場合

例：P T A研修会や教育講演会、家庭教育学級 等

②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合

例：学年・学級懇談会やP T A総会、部活動の保護者会、入学説明会、
地区懇談会、P T A役員会 等



だれと？
(集団の構成)

①同級生、同学年の子どもをもつ保護者の集まり

例：学年・学級懇談会、入学説明会、学年・学級P T A活動 等

②異年齢集団（子ども）の保護者の集まり

例：P T A総会やP T A研修会、部活動総会、地区懇談会 等



どのくらい？
(講座の時間設定)

①「親の学び」講座を中心に開催する場合

例：45分間や60分間の講座

②他の目的のために集まり、その中の一つとして「親の学び」講座を開催する場合

例：学年・学級懇談会、50分の中の20分間

地区懇談会の60分の中の30分間

P T A総会や部活動総会の始まる前の5分間 等



どこで？ どのくらいの人が？
(参加人数及び講座を行う場所)

①参加者は何名か。

- ・事前に参加者を募る場合は、参加人数の想定ができ、会場の広さを考えたり講座に必要な準備等もできます。
- ・当日にならないと何名が参加するかわからない場合は、グループ数や準備物等、その場で臨機応変に対応できるよう、心構えと事前の準備が必要です。

②どこ（会場）で行うのか。

- ・会場は人数に対して適当な広さか。その際、机や椅子の有無はどうか。
- ・講座はどこでもできます。その時の天候や参加人数、机や椅子の有無、進行役がパソコンやホワイトボードを使うかなどを考慮して会場を決めるとよいでしょう。

5 プログラムの活用場面

このプログラムの主な対象は、中学生・高校生の子どもをもつ保護者です。しかし、乳幼児期の子どもをもつ保護者や小学生の子どもをもつ保護者の方にも十分活用することができます。

【学校（中学校、高等学校）では・・・】

- ・ 学年・学級懇談会 ・ 地区懇談会（地区別研修会） ・ 入学説明会
 - ・ P T A 研修会（委員会ごとの研修会や全体の研修会で）や教育講演会
 - ・ P T A 総会の始まる前や総会の中で ・ P T A 役員会、運営委員会
 - ・ 教職員の校内研修 ・ 学校行事（学習発表会や学年行事の始まる前）
 - ・ 部活動総会の始まる前や部活動ごとに保護者が集まったとき
 - ・ 学年、学級 P T A 活動（体験活動やレクリエーション）の始まる前 等
- [さらに、小学校では]
- ・ 一日体験入学 ・ 就学時健康診断で保護者が集まったとき

【地域では・・・】

- ・ 町村郡市 P T A 連合会の研修会 ・ 公民館講座で
- ・ 各団体が実施する家庭教育学級 ・ 単位子ども会での親の集まり 等

【その他幼稚園、保育園、子育てサークル等では・・・】

- ・ 保育参観後の保護者会 ・ 家庭教育学級するとき
- ・ 役員会や説明会（会が始まる前やその会の中の時間で）
- ・ 遠足や発表会等で親が集まったとき（行事が始まる前の時間に）
- ・ 子育てサークルの定例会 等



6 プログラムの特徴や内容

(1) セクション1：「気付く・振り返る」きっかけプログラム

① 特徴

- ゲームを通して気付きを得るものや目的をもったゲーム的な活動です。
- PTA総会、研修会や部活動総会、学年・学級懇談会等、何らかの集まりの場で、会の始まる前や会の途中で簡単に行うことのできるプログラムです。
- セクション2やセクション3のプログラムの導入（アイスブレイク）として活用することもできます。
- 2～5分程度の短時間でできます。
- 子どもと一緒にできます。また、授業の始めや集会活動の時など、子どもたち自身も活用することができます。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
1	リラックスタイム ～力をぬいて～	2分	リラックス	肩の力や全身の力を抜き、リラックスする。
2	わたしはあなたのががみ ～動きを合わせて～	3分	しっかり見る コミュニケーション	相手の動きをよく見て、同じように手を動かす。
3	あったか家族川柳 ～言葉に込められた思い～	5分	家族のかかわり	家族のかかわりをテーマにした詩や川柳の一節を考える。
4	かさなったら、パン！ ～心をあわせて～	5分	過程が大事	進行役の手が重なった時に、手拍子をする。
5	箱の中は？ ～正確に伝えよう～	5分	適切に話すこと 正確に聴くこと	箱の中のものの特徴を伝え、それを聞いて何かを考える。
6	連想ゲーム ～考えを広げて～	5分	イメージの多様性	ヒントの言葉を聞きながら、情景をイメージする。
7	見えるものしりとり ～しっかり見て～	5分	しっかり見る	見える範囲から探したもので、しりとりゲームをする。
8	クイズ王になろう ～もっと知って子どものこと～	5分	親としての知識	子どもの現状（交通安全や心と体のこと）をクイズで考える。

【事前の準備】

- 時間、場所、参加者の人数等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 一斉にするかグループで行うか決める。
- 必要に応じてパソコン等を用意する。

《プログラムの進め方》

- ①方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想を聞く。
- ④まとめを話す。

(2) セクション2 :

「広げる・つながる」コミュニケーションプログラム

① 特徴

- ゲーム的な感覚の活動で、他者（参加者同士、親子）とコミュニケーションをとることができます。活動を通してお互いが親しみをもち、つながりを意識することができます。また、保護者の仲間の幅を「広げる」ことができます。
- 20分程度でプログラムを行うことができ、学年・学級懇談会や地区懇談会、PTA役員会等いろいろな場で、本来の会議等との組合せで行うことができます。
- セクション1のプログラムとの組合せを工夫すると効果的です。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
9	子育てすごろく ～中高Version～	20分	コミュニケーション	すごろくの話をもとに自己紹介をする。
10	つながりビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～	20分	保護者のつながり	ビンゴカードの話をもとに自己紹介をする。
11	サイコロトーク ～聴かせて、あなたの考え～	20分	多様な考え	サイコロの出た目の話をもとに自分の考えを紹介する。
12	プラスの表現 ～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～	20分	多様な見方・考え方	逆転の発想等を知り、プラスに表現する形容詞を使って、子どもを紹介をする。
13	メッセージ for You ～伝えよう親の気持ち～	20分	伝えたいこと	子どもへの願いを考え、子どもに宛てたメッセージを書く。
14	ファミリーアクション Yes or No ～あいさつ、手伝いどうしてる～	20分	あいさつ、役割	家庭でのあいさつや手伝い(役割)について考える。

【事前の準備】

- 目的や参加対象等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 準備物(すごろくセットやワークシート等)は必要数よりやや多めに用意する。
- 会場を考える。(椅子だけでは活動が効率的でない時がある)

《プログラムの進め方》

- ①活動の方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想をお互いに発表し合う。
- ④まとめを話す。

(3) セクション3 : 「深める・見つめる」親の役割プログラム

① 特徴

- PTA研修会や地区懇談会、学年・学級懇談会に研修として活用することができます。
- 親の役割等についてじっくり考えることのできるプログラムです。
- 参加者が自分の考えを話したり他の人の意見を聞いたりすることを通して、自分自身を見つめたり新しい価値観に触れたりすることで、子育てに対する不安や悩みが軽くなります。また、子育てに対する自信へとつながります。
- セクション1やセクション2のプログラムと組み合わせることもできます。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
15	ちょっと待ってよケータイ ～わが家の情報モラル～	25分	携帯電話とルール	携帯電話所持のメリットや危険性について考えたり、家庭でのルールについて話し合う。
16	やってみよう、 聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～	25分	わが家の聞き方	ロールプレイングで3種類の聞き方を体験し、会話をするときのポイントについて考える。
17	未来予想S ～10年後の子どもとわたし～	25分	10年後のわたし	子どもとのかかわりを振り返り、10年後の姿を考える。
18	子どもの夢サポート ～進路選択と親のかかわり～	30分	子どもの進路	子どもの進路選択に際しての親のかかわり方を考える。
19	子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～	30分	悩みと相談相手	子どもの悩みや相談相手について考えたり親のかかわり方を話し合ったりする。
20	感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～	30分	子どもの気持ち	「感情ランキング」を通し、子どもの悩み等に関心をもち、子どもとのかかわり方を考える。
21	親の役割3か条 ～親の目・子の目～	30分	親の役割3か条	子どもの立場で「親とのかかわり方」を考えたり、親の役割について話し合ったりする。
22	聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～	45分	悩みの共有	種々の悩みへのアドバイスを通して、多様な考えがあることや悩みは誰にもあることを知る。

【事前の準備】

- 目的や参加者の所属、時間、場所等を考慮してどのプログラムを活用するか決める。
- セッション1やセッション2のプログラムとの組合せができるかどうか考える。
- ワークシートなどの準備物がある場合は、必要数を調べやや多めに用意する。
- 提示するキーワード等の資料は保管しておき、次回からの講座で活用するようにする。



《 講座の進め方 》

1 アイスブレイク



※簡単なゲームで
心と体をほぐします。



2 ねらいの確認



※キーワードを提示
ねらいを確認します。



4 まとめ



※進行役の意見を押しつけるの
でなく、温かい雰囲気で行われ
るように心がけましょう。



3 グループ活動



※グループ活動のあと、全体
で意見を共有しましょう。
(個人→グループ→全体)

緊張がとれた
みたい・・・!

ねらいが
わかったぞ

それは、いい
アイデアですね。

わが家でも
やってみよう。

☆受講者、進行役、誰もが気をつけることはすべての人に敬意を払うことです。
参加者の誰もが安心して話せるように、講座中に聞いたプライベートな情報を他の場所で話すことは厳に慎むよう参加者に伝えましょう。

【参考】

スマイル（小学生期）編プログラム一覧

	プログラム名	時間	キーワード	プログラム名	時間	キーワード
ステップ 1	①後出しじゃんけん	3分	固定観念	②バランスをとろう	3分	時間の感覚 継続
	③リズムにのって動かそう ～指体操・腕体操～	3分	リズム 継続	④パンパンタッチ	5分	予測 相手に合わせて
	⑤聞いて、聞いて、リズムよく	5分	きく	⑥それ、私！ (子育て版フルーツバスケット)	5分	一人じゃないよ
	⑦だれだろう？何だろう？	5分	きく 正確な情報			
ステップ 2	⑧アイコンタクトで意思表示	15分	コミュニケーション	⑨頼って信じてウォーキング	15分	コミュニケーション
	⑩何と言ったかな？きいて、きいて！	15分	「聞く」と 「聴く」	⑪トーク&トーク ～すごろく de 紹介～	20分	コミュニケーション
	⑫話して！聞いて！ ～わいわいがやがやサイコロトーク～	20分	コミュニケーション	⑬あなたはどうか考えますか？ ～1枚の絵から広がるイメージ～	20分	多様な見方
	⑭わたしの考え、あなたの考え ～いろいろな考えを聞いてみよう～	20分	いろいろな考え			
ステップ 3	⑮よく使う言葉は？ ～言葉の力について考えよう～	20分	言葉の力	⑯これって「反抗期」？ ～子どもも成長、わたしも成長～	25分	親のかかわり方
	⑰子育てで広がる夢・喜び ～子育ての歩みとこれから～	30分	歩みと見通し	⑱わが家で大事にしたいこと	40分	わが家の1か条
	⑲ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！	40分	食生活	⑳伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを考えて～	45分	コミュニケーション
	㉑だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、話してみよう～	45分	悩みの共有	㉒地域の子どもは地域みんなで育てよう ～ステキな「ひと・もの・こと」～	45分	地域のよさ、ひと、もの、こと

スタート(乳幼児期)編プログラム一覧

①わが家の家庭教育	60分	わが家のルール	②一人じゃないよ仲間がいるよ ～悩みも喜びも誰にでもある～	60分	喜び、悩み
③子どもの気持ちと親のかかわり	60分	子どもの気持ちと親のかかわり	④上手なほめ方、しかり方 ～伝え方のひと工夫～	60分	子どものほめ方、しかり方
⑤家族みんなで生活リズム	60分	生活リズム	⑥上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～	60分	聞き方

II 展開編



セクション1



「気付く・振り返る」
きっかけプログラム

☆このような機会
活用できます！

☆各種会合が始まる前の時間や始まってすぐの時間

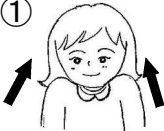


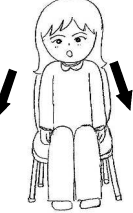
- 学年・学級懇談会や地区懇談会
- 部活動総会や各部ごとの保護者の集まり
- 入学説明会
- PTA教育講演会やPTA研修会
- PTA役員会
- 〔さらに小学校では〕
- 就学時健康診断時や一日体験入学時
- 子ども会の集まり

※子どもと一緒にできます。



【プログラム1:リラックスタイム～力をぬいて～】

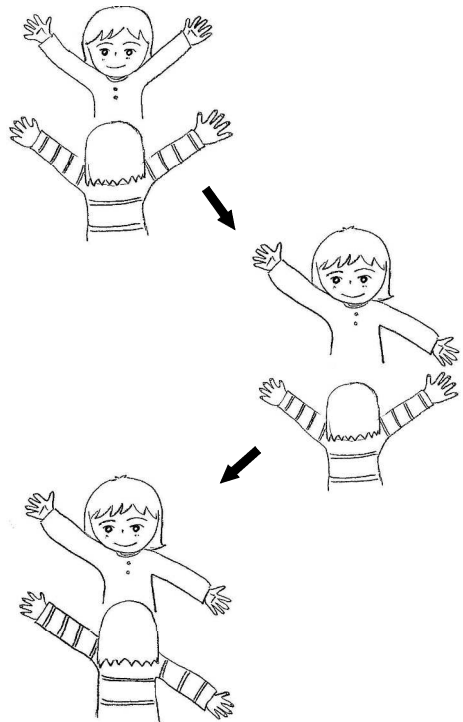
☆ねらい：リラクゼーションの方法を身につけ、子ども（他の人）とのかかわりを考えるとともに、これからの生活に役立てようとする気持ちをもつ。

キーワードの例	リラックス
時 間	2分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとでもできる）
準備物	なし
主な活動	①2つのリラクゼーションの方法を知る。 ②振り返りをする。
気を付けること	○体調が思わしくない場合は無理しないことを伝える。
方 法	<p>1 肩の脱力をする。</p> <p>①肩に力を入れ、上に上げる。 ②その後、一気に脱力して肩を落とす。</p> <p>2 声出しリラクゼーションをする。</p> <p>①座ったまま、大きく背伸びをする。このとき、「あー」と声を出す。 ②精一杯背伸びをしたら、一気に脱力する。</p> <p>3 振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>4 まとめを聞く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>1</p>  <p>①</p>  <p>②</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>2</p>  <p>①</p>  <p>②</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>子どもと接しているとき、つい感情的にことばを発してしまったという経験もあるだろう。その時の親子関係はどうだったか。</p> <p>感情的になりそうなときは、ちょっと自分自身をクールダウンさせてほしい。子どもへの接し方、ことばの発し方を考えるきっかけ（時間）となるだろう。</p> </div>
備 考 (アレンジ等)	○立って行うこともできる。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム2:わたしはあなたのかがみ ～動きを合わせて～】

☆ねらい：相手の動きに合わせて動くゲームを通して、コミュニケーションの大事さを考える。

キーワードの例	しっかり見る、コミュニケーション
時間	3分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとでもできる）
準備物	なし
主な活動	①相手の動きに合わせて、自分も動く。 ②振り返りをする。
気を付けること	○参加者の体調に気を付ける。
方法	<p>1 やり方を聞く。 ①2人組になる。 ②片方がリーダーになり、手を広げ、いろいろな方向に手を動かす。 ③相手は、リーダーの動きに合わせて動く。 ※リーダーは10拍分動く。 リ：（1拍目）相：（1拍目） →リ：（2拍目）相：（2拍目）→リ：（3拍目）相：（3拍目）・・・と、続く。</p> <p>2 やってみる。 ※リーダーをどちらも体験する。</p> <p>3 振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>4 まとめを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の動きに合わせてすることは簡単そうで難しいこともある。その時、相手とのコミュニケーションが大事である。コミュニケーションは、自分の意志を伝えることと相手の意志を受け取ること、双方向から意志（気持ち）の伝達が必要だ。</p> </div>
備考 (アレンジ等)	○2回ずつ行う場合は、1回目は、声を出さずに無表情で行う。2回目を、手を広げるとき「はい」「へい」など、好きな言葉を言いながら、表情豊かに行うようにするとよい。
他プログラムとの関連	なし



【プログラム3:あったか家族川柳 ～言葉に込められた思い～】

☆ねらい：川柳に込められたことばを考えることによって、親子関係や家族のあり方を見つめようとする気持ちを高める。

キーワードの例	家族のかかわり
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	補助シート
主な活動	①子育て川柳や三行詩の一部分を考える。 ②振り返りをする。
気を付けること	○正解を導き出すのがプログラムのねらいではなく、親子関係や家族関係の在り方を詩や川柳を通してそれぞれが考えようとするのがねらいである。そのことを進行役が理解しておくことが大事である。
方 法	<p>1 子育て川柳や三行詩の空欄部分を考える。 (例題は補助シート参照)</p> <p>①自分で考える。 ②まわりの人に自分の考えを伝える。 ③正解を聞く。</p> <p>2 振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>3 まとめを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【例】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>中学1年 男子</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto;"></div> <div style="text-align: center;"> <p>家族できめた 「ただいま」「おかえり」</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>子育てを考える三行詩や川柳はいろいろあり、考え方も多様であるが、心が温まるものが多い。その詩(子どもの気持ちをj知ること)を通して、自分の家庭、親子関係を振り返ってほしい。</p> </div>
備 考 (アレンジ等)	○例示の川柳と同じ気持ちになったこと等、自分の経験と重ね合わせて考える活動を取り入れ、それを全体に紹介し、思いを共有していく方法もある。
他プログラムとの関連	なし

【 あったか家族川柳 ～ことばに込められた思い～】 補助シート

1 「ただいま」 「おかえり」
家族で決めた
愛言葉
中学1年 男子

2 頑張らなくていいからね。
その一言で頑張れたよ、
ありがとう、ばあちゃん
中学2年 男子

3 少しの 会話
それでも大きな
コミュニケーション
中学3年 男子

4 ホットする
働く母の
置き手紙
中学2年 女子

5 朝、目覚めたら
まずは、「おはよう。」
心のスイッチ。
中学1年 女子

6 父よ
野球をすれば グローブを
勉強すれば 参考書を
タバコを吸えば 鉄拳 をくれた
父よ
あなたは父親の鑑だ
高校3年 男子

7 ありがとう。
その一言で救われる。
ごめんね、
その一言で優しくなれる。

8 家族 っていういな
いつも優しい目で見守ってくれる。
君もうしろを見てごらん。
あたたかい 家族 がまってるよ。

9

「ごめんなさい」

その一言が

言えなかつただけなのに、

そんな自分が

なぜかくやしい。

10

ガンバレ！！ じゃなく、

“がんばったね” に

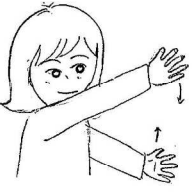

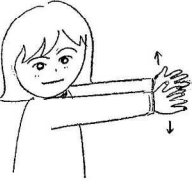

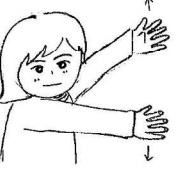

元気が出た！！

【出典】

- 1～5：平成22年度、「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」
三行詩優秀作品（文部科学省、社団法人日本PTA全国協議会）
- 6：平成21年度 みえの子ども応援プロジェクト
一行詩コンクール入賞作品より
- 7：平成22年度人権メッセージ優秀作品より
（熊本県人権同和政策課）
- 8：平成20年度作成人権メッセージ作品集より
（熊本県人権同和政策課）
- 9：平成19年度作成人権メッセージ作品集より
（熊本県人権同和政策課）
- 10：平成18年度作成人権メッセージ作品集より
（熊本県人権同和政策課）

【プログラム4:かさなったら、パン! ~心をあわせて~】


☆ねらい：相手の動きに合わせて手をたたくゲームを通して、途中の経過も見る事が大事であることに気づき、生活に役立てようとする。

キーワードの例	過程が大事
時間	5分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとでもできる）
準備物	なし
主な活動	①やり方を聞き、やってみる。 ②振り返りをする。
気を付けること	○参加者全員が進行役の手が見えるかどうか考える。
方法	<p>1 説明を聞く。 《進行役のやり方》</p> <p>①進行役は両手を前に伸ばす。 ②右手を肩の上から下に向かって下げていく。 ③左手は下から、上に向かって上げていく。 ④右手と左手は同時に動かし、これを繰り返す。</p> <p>《参加者》</p> <p>○進行役の左手と右手の手のひらが重なったときに、手をたたく。</p> <p>2 やってみる。 3 振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。 4 まとめを聞く。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
備考 (アレンジ等)	○慣れたら、途中でスピードを速くしたり遅くしたりする。 ○参加者は、手をたたく時、「はい」等の声を出すと盛り上がる。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No 7 見えるものしりとり～しっかり見て～

手をたたいたときはみなさんしっかり見ていたようだ。それは、途中でどんなスピードになるかわからないからだと思う。
日頃の生活では、毎日同じようなリズムで過ごしていく場合が多い。しかし、「いつもと同じ」と過信してしまうと、ちょっとした変化などを見逃してしまうこともある。
毎日が同じようなリズムでも、会話や表情などを通して、変化に気づこうとすることは大事なことだ。


【プログラム5:箱の中は?～正確に伝えよう～】

☆ねらい：ものの大きさや手触りで感じたことを相手に伝えることを通して、しっかり聴くことや適切な表現等のコミュニケーションについて考える。

キーワードの例	適切に話すこと、正確に聴くこと
時間	5分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	手が入るくらいの箱、箱の中に入れるもの
主な活動	①伝える係（1名）は、箱に手を入れ、箱にあるものの特徴を参加者に伝える。参加者は、ことばのヒントを手がかりに、箱の中のものを考える。 ②振り返りをする。
気を付けること	○箱の中のものはヒントからいろいろ連想できるものがよい。単なるクイズにならないように、生活と結びつけて考えたり、生活を振り返ったりすることが大事である。
方法	<p>1 参加者の中から1人、協力者を募る。</p> <p>2 協力者は、箱の中に手を入れ、箱の中にあるものの特徴を考える。</p> <p>※箱に何が入っているかは、協力者には事前に伝えるが、実際のものには見せない。</p> <p>3 協力者は、中に入っているものの特徴をヒントとして参加者に伝える。 参加者は、協力者のヒントを手がかりに、箱の中のものを考える。</p> <p>※ヒントの数は、初めに決めておき、進行役が協力者・参加者に伝える。</p> <p>4 進行役は、正解を知らせ、協力者に感想を聞く。</p> <p>5 まとめを聞く。</p>
	
	<p>自分の言いたいことを正確に伝えることは、「難しい。」と感じることがある。また、相手が何を言いたいのかを聞くときも同じである。</p> <p>子ども（相手）の話を書くとき、話し手が何を伝えようとしているか、しっかり受け止めることが大事である。</p>
備考 (アレンジ等)	○箱を2～3個用意し、協力者も2～3人お願いする。協力者それぞれが自分で考えたヒントを参加者へ出し、それを聞いて箱の中のものを考えるやり方もある。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No.6 連想ゲーム～考えを広げて～

【プログラム6:連想ゲーム～考えを広げて～】

☆ねらい：言葉を手がかりにイメージを広げ、それを出し合うことによって、イメージの多様性や個性の豊かさに気づく。

キーワードの例	イメージの多様性
時間	5分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとでもできる）
準備物	なし
主な活動	①進行役の言葉からイメージする「情景」を思い浮かべる。 ②イメージしたことを出し合う。
気を付けること	○言葉を手がかりにイメージする情景等は人によって様々であるということを参加者に伝え、プログラムを進めるようにするとともに、ねらいが深まるように、日頃の生活の振り返りを大事にする。
方法	<p>1 進行役の言葉からイメージする「情景」を思い浮かべる。 ・参加者は目を閉じる。 ・進行役が言葉を言う。</p> <p>例： ①「ここは広いところで、気分もさわやかです。」 ②「大きく背伸びをしているとき、ふと近くに誰かがいることに気がつきました。」 ④「どんな人がいると想像しましたか。あなたとその人はどんな会話をするでしょう。」</p> <p>2 進行役の言葉を最後まで聞いた後、イメージしたことを出し合う。 3 振り返りを行う。 4 まとめを聞く。</p> <div style="text-align: right;">  <p>ここは広いところで、気分もさわやかです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>一つの言葉からもいろいろなことをイメージすることができる。話をしている、お互いの多様な考え・想像力に触れると、楽しいことであると同時に、言葉数が少なすぎると伝えたいことが正確に伝わらないこともあるのではないだろうか。 親子でも、一つの言葉からイメージするものは多様なので、「これ（この言葉）でわかるだろう」と思い込むのではなく、伝えたいことは、はっきり伝えることが大事だ。</p> </div>
備考 (アレンジ等)	○ヒントとなる言葉から連想するものを、動物や日用品等に変えることもできる。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No 5箱の中は？～正確に伝えよう～ スマイル（小学生期）編：No 7だれだろう？何だろう？

【プログラム7:見えるものしりとり~しっかり見て~】

☆ねらい：見えるものしりとりを通して、日頃見慣れていること（ひと・もの・場所）でも、じっくり見ようとすることで、見えていなかったものがあることに気付く。

キーワードの例	しっかり見る
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとでもできる）
準備物	なし
主な活動	①やりかたを聞き、やってみる。 ②振り返りを行う。
気を付けること	○視野を広げて考えることが大事であることを伝える。
方 法	<p>1 見えるものしりどりの説明をする。 〈やり方〉 自分の見える範囲のもので、しりとりゲームをする。</p> <p>2 - A 全員で行う場合 ①進行役が一つことばを言う。 ②参加者が続きを考え、答えてもらう。 ③進行役が続きのことばを言う。 ④参加者はさらに続きを考える。</p> <p>2 - B 2人組で行う場合 ①どちらから先に始めるかを決める。 ②上記と同じやり方で、しりとりゲームをする。</p> <p>3 振り返りを行う。 4 まとめを聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>日頃見慣れているものや場所、いつも一緒にいる人でも、じっくり見たり、角度を変えて見たりすることで、今まで気づかなかったことに気付くことがある。 考え方も同じで、一つの方向からだけの考え方ではなく、発想の転換をしたり逆転の発想を用いたりすることで、人（子ども）の気になる部分（短所の部分）がその人の特長として感じることへとつながることもある。</p> </div>
備 考 (アレンジ等)	○2人対2人や3人対3人のグループで行う方法もある。(いろいろなものを見つけにくいような会場であれば、グループ戦を行ったほうが、しりとりゲームが続く、協力性が育まれる等の効果も期待できる。)
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No4かきなったら、パン！～心をあわせて～

【プログラム8:クイズ王になろう ～もっと知って子どものこと～】

☆ねらい：中高生の子どもをもつ親として、子どもたちを取り巻く現状や課題を知ること
で、子どもの生活に関心をもつ。

キーワードの例	親としての知識
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	パソコン（データを示すとより効果的）
主な活動	①問題について考える。 ②印象に残ったことを参加者同士で話したり、全体に紹介したりする。
気を付けること	○二択クイズを通して、子どもたちの現状を知るとともに、「命を大事にしてほしい」というメッセージをもつ。
方 法	<p>1 二択○×クイズを数問行う。 【出題例】</p> <p>※右の出題のような問題・答えとその根拠となるデータ等を示す。 ・「自分にいいところがある」と思っている高校生の割合は、6割以上である。</p> <p>2 特に印象に残ったことを数名で話し合ったり、全体に紹介したりする。 ※問題の種類</p> <p>3 まとめを聞く。 ○高校生期～心とからだ編～ ○高校生期～交通安全編～ ○高校生期～保護者編～ ○中学生期～心とからだ編～ ○中学生期～交通安全編～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>子どもたちを取り巻く現状をいろいろな角度から知ることも親として必要なことである。新しい情報を知ること、子どもの生活を見つめたり、子どものことを分かろうとしたりすることが大事だ。</p> <p>子どもたちの現状を受け止めるとともに、子どもたちには、「自分のことを好きでいてほしい」「命を大事にしてほしい」というメッセージを伝えてほしい。</p> </div>
備 考 (アレンジ等)	○他プログラムと関係あるの問題を導入に使う方法もある。
他プログラムとの関連	なし

セクション2



「広げる・つながる」
コミュニケーション
プログラム

☆このような機会
活用できます！

☆各種会合、保護者の集まりで活用できます。

- 学年・学級懇談会
- 地区懇談会（地区別研修会）
- 部活動の各部ごとの集まり
- 入学説明会
- PTA研修会やPTA教育講演会
〔さらに小学校では〕
- 就学時健康診断時や一日体験入学時
- 子ども会や学童保育の保護者の集まり

※参加者同士がこれまで以上に、
お互いに「親しみ・つながり感」
をもつことができます。



【プログラム9：子育てすごろく～中高Version～】

☆ねらい：すごろくを使い自分を紹介しあうことを通して、お互いを知り、思春期の子どもをもつ親の思いを共有したり豊かな人間関係を築くきっかけとしたりする。

《プログラムの概要》

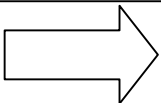
キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	サイコロ、すごろくシート、（各グループ数）、コマ（人数分）
主な活動	①すごろくを使って自己紹介をする。 ②感想や印象に残った意見を、他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○可能な範囲で話すこととよいことや、話せないときは、「パス」してもいいこと等を説明し、安心感をもって参加してもらおうようにする。 ○全員が同じように話すことができるようにする。（例：話す時間を1回約30秒程度と決める等）
備 考 （アレンジ等）	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。
他プログラムとの関連	スマイル（小学生期）編：No11トーク&トーク～すごろくde紹介～

【プログラム9：子育てすごろく～中高Version～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
17分	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>グループ</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>2. すごろくを使って自己紹介をする。 【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <p style="padding-left: 20px;">○サイコロの出た目の数だけコマを進め、止まった場所の話題を話す。</p> <p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○可能な範囲で話す。</p> <p>○場合によっては、「パス」をしてもよい。</p> <p>○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で)</p> <p>○誰かが話しているときは、しっかり聴く。</p> <p style="padding-left: 20px;">(相手を見る、うなずく、微笑む 等も含む)</p> <p>○誰かが話し終わったら、拍手をする。</p> </div> <p>(3) グループごとに始める。〈12分〉</p> <p style="padding-left: 20px;">・活動の時間を決め、その時間で進んだ所までとする。</p> <p>3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。 【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>いろいろなことを紹介し合うことで、お互いが身近に感じられるようになったのではないか。同世代の子どもをもつ親は喜びも悩みも共有できる。一人で抱え込まないで、これを機に、参加者のつながりを深めていこうとすることが大事だ。</p> </div>

スタート

まずはお名前を。



しよっ

好きな食
べ物をリ
ズムよく
3つ紹介
しよう

好きな
色・自分
似合う色
は？

今一番、行
ってみたい
ところは？

グループの
人と握手を
しよう！

今、ほしい
ものは？

子どもに
望むこと
は？

声を出して
笑ってみよ
う！

今、一番や
りたいこ
とは？

10代の頃
の思い出
は？

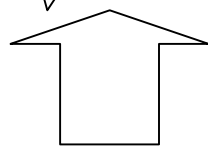
本日は一番
の笑顔を
見せよ
う！

幸せと感
じるとき
は？

10年後の子
どもはどうし
てる？

話題の中心は、
「あなた」です。

ゴール



ラッキーチャンス！
誰かが にとまっ
たら、全員話せるよ。

10年後の
あなたは
どうして
る？

夕食時も子ども
は携帯電話を離
しません。あなた
はどうする？

子どもに
ストレス
ス発散
法は？

子どもが異性と二
人で見るところを
見ました。そのとき
何と言った？

子どものこ
とで、嬉し
かったこと
は？

子どもが内緒
でピアスをあ
けていました。
あなたは何と
言う？

最近、嬉し
かったこと
は？

宝くじにあ
ったたら？

子どもの頃
の夢は？

人生で最も
こわかった
思い出は？

自分が頑
張ってい
ると思う
ことは？

子ども(家
族)に一番
言いたい
ことは？

子ども
のこと
で気に
なるこ
とは？

苦手な食
べ物は？

ラッキー
2つ進む。
あとの人は
拍手を！

【プログラム10:つながいビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～】

☆ねらい：つながりビンゴゲームを通して、お互いが親しくなろうとする気持ちを高めたり、能動的な傾聴（※注）や適切な自己表現力を身につけようとしたりする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	保護者のつながり
時 間	20分
人 数	何人でもできる（20名以上だとより効果的）
活動形態	全体
準備物	ビンゴカード（人数分）フリーカード（1人2枚を人数分）
主な活動	①説明を聞き、つながりビンゴゲームを行う。 ②感想を出し合う。
気を付けること	○しっかり聴くことや、可能な範囲で話してよいこと等を説明し、安心感をもって参加してもらうようにする。 ○できるだけ積極的に自分から声をかけるように促す。 ○参加者がやり方を理解できるように説明は十分行う。
備 考 （アレンジ等）	○全員が動き回れる広さが必要。
他プログラムとの関連	なし

※本プログラムで捉える「能動的な傾聴」とは、

「傾聴」とは、相手の話に耳を傾け、相手の思っていることや感じていることを受け止め、理解しようと努めることです。アイコンタクトやあいづち、また、うなずきなどの共感的な表情等の手法を使って相手の話を聴くことをイメージしています。

「能動的な傾聴」とは、相手の思いを受け入れよう、相手の思いにつながろうとするために、前述した手法等に加え、適度な間合いで相手の気持ちを言葉で表すことを取り入れた聴き方をイメージしています。

話し手は、自分（話し手）の気持ち、感情や伝えたいこと等を他者（聞き手）から聞くことによって、気持ちを整理することができたり、「自分のことをわかってもらえた」という思いをもつことができると言われています。

【プログラム10：つながりビンゴ～聴いて、話して、親しくなろう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○保護者のつながり</p>
17分	全体	<p>2. 「聴いて、話して、つながりビンゴ」ゲームをする。 【15分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈3分〉※進行役は、進め方シートを使って説明する。</p> <p>○参加者は、ビンゴカード（1枚）フリーカード（2枚）と、鉛筆等を用意する。</p> <p>○カードの項目について、参加者同士、話したり聴いたりする。カードには、同じ参加者の名前が入らないようにする。必要に応じてフリーカードを用いる。自分が質問したいところが既に聞かれていた場合、フリーカードを使うと、相手に質問することができる。</p> <p>○相手からもらったフリーカードは、その後は自分の分として使える。</p> <p>○タテ、ヨコ、ナナメのいずれかがそろったらビンゴとなる。2列ビンゴを作ったら、あがりとなる。</p> <p>※あがりになっても続けてもいいし、自分の席にもどってもよい。</p> <p>※フリーカードは、座っている人にも使える。</p> <p>全体 (2) ビンゴゲームをやってみる。〈12分〉</p>
	全体	<p>3. 感想を全体に紹介する。 【2分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>子どもが中学生、高校生になってくると、子ども自身の生活圏なども広がる。しかし、保護者同士のつながりは疎遠になってしまう傾向にある。保護者同士が親しくなり、子どものこと、学校のことなど話せる関係があると、子育てについての情報を共有したり悩みを話せたりする。まずは、保護者同士が親しくなろうとする気持ちをもつことが大事。</p> </div>

【つながりビンゴ～聴いて、話して、親しくなろう～：進め方シート】

《パターンA》

- さん：こんにちは。私は●●です。2番を教えてください。
◆◆さん：こんにちは。私は◆◆です。いいですよ。
うちの子どものいいところは、よく話をしてくれるところです。
●●さん：ありがとうございました。
うちの子どものいいところは、優しいところです。

※カードの2番のところに、相手の名前を記入する。そして、握手をしてわかる。

《パターンB》

- さん：こんにちは。私は●●です。6番を教えてください。
★★さん：こんにちは。私は★★です。
残念ですが、そこはもう答えてしまいました。
●●さん：そうですか、わかりました。

※お互い、何も記入しない。握手をしてわかる。

《パターンC》

- さん：こんにちは。私は●●です。10番を教えてください。
♪♪さん：こんにちは。私は♪♪です。
残念ですが、そこはもう答えてしまいました。
●●さん：そうですか、それでは、このフリーカードを渡します。
10番を教えてください。
♪♪さん：わかりました。私の中学時代の思い出は、部活をやっていたことです。
よく怒られもしたけど、楽しかったです。
●●さん：ありがとうございました。
私の中学生の頃の思い出は、修学旅行で一晩中おしゃべりしていたこと
です。次の日、とても眠かったです。

※●●さんは、10番のところに♪♪さんの名前を記入する。
♪♪さんは、●●さんからフリーカードをもらう。
そして、握手をしてわかる。

◎カードの項目それぞれについて、全部が違う参加者の名前になるようにしましょう。

◎フリーカードを効果的に活用しましょう。

※質問したいところが既に質問されていた場合でもフリーカードを使うとその部分を質問することができます。

「つながりビンゴ」カード

1	2	3	4
自分のすきなところは？	我が子のいいところは？	あなたは、どんな子どもだった？	地域のいいところは？
名前:	名前:	名前:	名前:
5	6	7	8
ストレス発散法は？	10年後の自分は？	どんな人になってほしい？	行ってみたいところは？
名前:	名前:	名前:	名前:
9	10	11	12
子どものころの夢は？	中学生時代の思い出は？	あなたのすきな食べ物は何？	10年後の子どもは？
名前:	名前:	名前:	名前:
13	14	15	16
今、やりたいことは？	子どものことで嬉しかったことは？	子育ての悩みや苦労は？	紹介したい人は？
名前:	名前:	名前:	名前:

フリーカード1
 ※このフリーカードを使うと
 どこでも質問できます。

フリーカード2
 ※このフリーカードを使うと
 どこでも質問できます。

【プログラム11:サイコロトーク

～聴かせて、あなたの考え～】

☆ねらい：サイコロトークを通して、生活圏が広がっていく中学生、高校生の子どもに、親としてどうかかわっていくか考えるきっかけとする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な考え
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	手作りABバージョンサイコロを1個ずつ（グループ数）、 または、サイコロと話題シート（グループ数）
主な活動	①サイコロトーク（順番にサイコロを振り、出た目の話題を話す。）をする。 ②感想や印象に残った意見を他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○可能な範囲で話してよいことや、しっかり聴くこと等を説明し、安心感をもたせる。 ○全員が同じように話せるようにする。（例：話す時間を1回につき1分以内と決める等）
備 考 （アレンジ等）	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。 ○参加者の構成や学校・学級、その他実施対象の保護者に合わせて話題は変更することもできる。
他プログラムとの関連	スマイル（小学生期）編：No12話して！聞いて！～わいわいがやがやサイコロトーク～

【プログラム11：サイコロトーク～聴かせて、あなたの考え～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○多様な考え
17分	全体	2. サイコロトークをする。【14分】 (1) 方法を知る。〈1分〉 ○グループに手作りサイコロ2種類を1個ずつ、または、サイコロ1個と話題シートを配付する。 ○1人ずつサイコロを振り、その出た目の話題（どちらか1つ）を選んで話す。 ○全員が二回ずつ話したら（数は適当に決めてよい）もっと話題にしたいこと等を決め、そのことについて、全員で話を深める。 ※話題についての自分の考え } 自由に話すことができる ※家ではどうしているか } ※自分の時はどうだったか } 全体 (2) 注意事項を確認する。〈1分〉 ○可能な範囲で話す。 ○1人の話が長すぎないようにする。（1回の発言は1分以内で） ○誰かが話しているときは、しっかり聴く。 （相手を見る、うなずく、微笑む 等も含む） ○誰かの話が終わったら、拍手をする。 ○参加者のプライバシーにかかわるものは、勝手に他の人に話さない。
	グループ	(3) グループごとに始める。〈12分〉 ※参加者の属性に応じて話題をかえてもよい。 ※サイコロトークの中で気になる発言等があったら、なぜそう思ったかなどを可能な範囲で聞く。そして、進行役はどう考えるか等を話す。多様な価値観が認められるが、あきらかに偏った価値観である場合は、発言者の考えがあることを認めながらも、他の考えも受け入れていこうとすることが大事であることを話す。
	全体	3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。【3分】
2分	全体	4. まとめ【2分】 小遣いの額や帰宅時間など家庭で決めている事でも、ときどき「他の家庭ではどうしているのだろうか」と思うことがあるのではないかと。同じ世代の子どもをもつ保護者が集まり意見の交流をすることで、考えの幅が広がる。いろいろな考えを知ることで、自分の考えの幅が広がったり子育ての自信へとつながったりするだろう。

【Aバージョン】

		③ アルバイトは いつ頃から OK?	
⑥つけまつ 毛をしたり、 髪を染めた り、どう思 う?	⑤ 子どもの家 庭での手伝 い、仕事 は?	①子どもの 小遣いどうし てる?	
	④ 子どもの異 性とのつき あいどう思 う?		
	② 子どもの携 帯どうして る?		

※実線をはさみで切り
組み立てると、サイコ
ロができあがります。

【Bバージョン】

③子どもの
相談相手
は、誰だと思
う？

⑥
子どもの楽し
みは何だろ
う？

⑤自分の時
と比べて変
わったと思
うことは？

①
家庭での学
習の様子は
どう？

④露出度の多い
服、奇抜な服、下
着が見える腰パ
ン等、子ども(若
い人)の服装をど
う思う？

②
親子の会話
がはずむと
きは？

※実線をはさみで切り
組み立てると、サイコ
ロができあがります。

話題シート

さいころの目		話 題
1	A	子どもの小遣いどうしてる？
	B	家庭での学習のようすはどう？
2	A	子どもの携帯どうしてる？
	B	親子の会話がはずむときは？
3	A	アルバイトはいつ頃からOK？
	B	子どもの相談相手は誰だと思う？
4	A	子どもの異性とのつきあいどう思う？
	B	露出度の多い服、奇抜な服、下着が見える腰パン等、子ども(若い人)の服装どう思う？
5	A	子どもの家庭での手伝い、仕事は？
	B	自分の時と比べて変わったなと思うことは？
6	A	つけまつ毛をしたり、髪を染めたり、どう思う？
	B	子どもの楽しみは何だろう？

【プログラム12：プラスの表現

～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～】

☆ねらい：いつもと違う方向から物事を考えたり見たりすることを通して、多様性に対する開かれた考えをもって子どもとの関わりを考えようとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な見方・考え方
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体＋グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	ワークシート
主な活動	①逆転の発想を知る。 ②プラスの表現を知り、それを使って子どもを紹介をする。 ③感想を出し合う。
気を付けること	○逆転の発想やプラスの表現を知ること、多様な見方や考え方があるということを知らせる。
備 考 (アレンジ等)	○逆転の発想やプラスの表現の例を進行役がいくつか用意しておき、その時の状況に応じて柔軟に対応するようにする。
他プログラムとの関連	スマイル（小学生期）編：No13 あなたはどう考えますか？～1枚の絵から広がるイメージ～

【プログラム12：プラスの表現～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○多様な見方・考え方
17分	グループ 全体 全体 全体	ワークシート使用 2. 長所と短所について考える。 【15分】 (1) 「あなたなら、何と言う？」をする。〈5分〉 (2) 逆転の発想を知らせる。〈3分〉 「気が強い」→「自分の考えをもっている」 「わがまま」→「自分の意見を通しぬく」 「言い方(言葉)がきつい」→「はっきり言う、正直に言う」 (3) プラスの表現を知り、それを使って子どもを紹介する。〈7分〉 ○プラスの表現を知る。 ○プラスの表現を使って子どもを紹介する。
2分	全体	3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。 【2分】 4. まとめ 【2分】 誰にでも長所や短所がある。短所を、この人は◆◆だと決めつけるのではなく、逆転の発想でとらえたり、プラスの表現で考えたりすることも時には必要である。 逆転の発想やプラスの表現など、多様な見方、考え方があることを知り、自分に取り入れていこうとすることは、自分・子ども・他の人の大切さを認めていくことにつながる。それは、自分の他の人たちとの豊かな関係づくりの土台となるだろう。

【プラスの表現～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～：ワークシート】

1 あなたなら、何と言う？

◆あるお母さんが、娘の性格等のことで悩んでいます。



○うちの娘、気が強いうえにわがまま。そして、最近、言い方（言葉）もきつくなってきたのよ。子どもの「いい所を伸ばしましょう」ってよく聞くけど、短所というか気になることの方がいっぱい目について……。どうしたらいいかしら……。

☆話を聞いたあなたは、そのお母さんに何と言うと思いますか？

2 プラスの表現を使ってみよう。

「プラスの表現」とは
・・・肯定的な言い方、優しい感じのする言い方のこと

例

- うるさい → にぎやか、() ()
- おせっかい → お世話好き、() ()
- 落ち着きがない → 元気がいい、() ()
- いじわるをしない → やさしくしましょう、()

◆プラス表現を使って、子どもを紹介しよう。

例 名前が、「親野 学」(おやの まなぶ)さんの場合



① おもしろいことが好きな「おやの まなぶ」です。

② まわりの人にもやさしい「おやの まなぶ」です。

☆子どものことを、どう紹介しますか？ (いくつか考えてみましょう。)

【プログラム13: メッセージ for You ～伝えよう親の気持ち～】

☆ねらい：子どもに伝えたいメッセージを考えることを通して、大人（親）としての姿を考える。

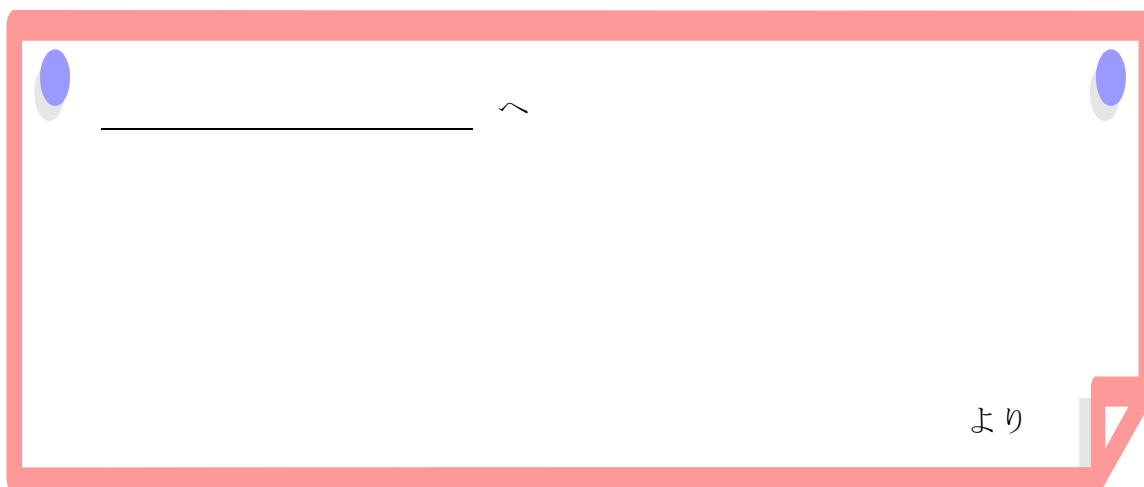
《プログラムの概要》

キーワードの例	伝えたいこと
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）、全体でもよい
準備物	色カード（何色でもよい、1人1枚、大きさ自由） メッセージカード（1人1枚）
主な活動	①子どもへの願いや自分に似てほしいことを考える。 ②子どもへのメッセージを考える。
気を付けること	○子どもへのメッセージを書くことに抵抗がある参加者には、「メッセージではなく、伝えたい思いをメモする」等の弾力的な扱いが望まれる。
備 考 (アレンジ等)	○色カードは、発言者と同じ考えの意思を表し、雰囲気盛り上げるために用いるので、カードでなくても他のものでも代用できるし、2色のカードを使ってもよい。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム13：メッセージ for You～伝えよう親の気持ち～】

時間	形態	講座の流れ						
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○伝えたいこと</p>						
17分	グループ	<p>2. 子どもが、どんな性格の人、どんな人柄をもった人に育ててほしいか、話し合う。 【8分】</p> <p>①グループで、順番に1つずつ出し合っていく。</p> <p>②言った人と同じ考えの時は、色カードを見せる。</p> <p>③限られた時間内にできるだけたくさん出し合う。</p> <p>例： }</p> <table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td>自分の考えをもっている人</td> <td>一生懸命取り組む人</td> </tr> <tr> <td>誰に対しても優しくできる人</td> <td>素直な人</td> </tr> <tr> <td>人に迷惑をかけない人</td> <td>ユーモアがある人</td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">など</p>	自分の考えをもっている人	一生懸命取り組む人	誰に対しても優しくできる人	素直な人	人に迷惑をかけない人	ユーモアがある人
自分の考えをもっている人	一生懸命取り組む人							
誰に対しても優しくできる人	素直な人							
人に迷惑をかけない人	ユーモアがある人							
	グループ	<p>3. 自分のどんなところ、どんな部分を真似してほしいか、似てほしいか出し合う。(人柄、性格、仕事など含めて幅広い視点で考える) 【6分】</p> <p>①グループで、順番に1人ずつ言う。</p> <p>②「なるほど」と思ったときは、色カードを見せる。</p>						
	個人	<p>4. 子どもに伝えたいことを考える。 【3分】</p> <p>○子どもに伝えたいメッセージを1つ考え、カードに書く。</p>						
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>子どもにとって1番身近にいる大人は親である。子どもに「●●となつてほしい」という願いをもつとともに、自分のこんな姿を見てほしいと、子どもに言える大人でありたい。</p> <p>子どもに伝えたい思いは、思っているだけではなく、時には伝えないと子どもには(大人同士でも)伝わらないこともある。</p> </div>						

【メッセージ for You～伝えよう親の気持ち～：メッセージカード】



《キーワード》

- 伝える ○愛している ○あいさつ ○習慣
- 善いこと悪いこと ○ありがとう ○感謝
- がまん ○命 ○大切 ○家族
- 友だち ○仲よく ○食事 ○団らん ○体験
- 宝 ○手伝い ○早寝早起き朝ごはん

※メッセージを考えるとき参考にしてください。

【プログラム14:ファミリーアクション Yes or No ～あいさつ、手伝いどうしてる～】

☆ねらい：子どもに家族の一員であることの自覚をもたせるためのアイデアを考えることを通して、子どもの成長の基盤は家庭にあることを再認識する。

《プログラムの概要》

キーワードの例	あいさつ、役割
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体+グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	2色のカード（どんな色でもよい、2色を1人1枚ずつ、大きさ自由）を人数分
主な活動	①子どもの生活を振り返る。 ②家庭での「あいさつ」や「手伝い（役割）」について話し合う。
気を付けること	○話し合うときは、「あいさつ」か「手伝い（役割）」のどちらかにテーマをしぼった方がよい。
備 考 (アレンジ等)	○参加者全員が、問いに対しての意思表示を同時にするために、カードは2色用意する。全体的な傾向を参加者に知らせるのは、進行役でもいいし、参加者から1～2名の協力者を募ってもよい。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム14：ファミリーアクション Yes or No
～あいさつ、手伝いどうしてる～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○あいさつ、役割
17分	全体	2. 子どもの生活を振り返る。【5分】 ①問い（次ページ）に対して、意思表示をする。 ・「ある」「している」の場合は●色のカード ・「ない」「していない」「わからない」の場合は◆色のカード ②全体的な傾向を参加者に知らせる。
	グループ	3. 家庭における「あいさつ」や「手伝い（役割）」について、話し合う。【7分】 ◎自分の家庭ではどうか。 ○「あいさつ」の場合、子どもの様子、親自身、家族に対して等、幅広い状況を考える ◎自分が子どもの年代の頃はどうかであったか。 ◎親として、どんな声かけが大事か。 ○「手伝い（役割）」で、継続させやすいものはどんなものか。 ※「あいさつ」か「手伝い（役割）」のどちらを主に話し合いをするかを決める。 ※手伝い（役割）は、比較的取り組みやすいものを例示する。 例：自分が使った茶わんは、流しまで運ぶ 洗濯物は自分でタンスに片付ける など
	全体	4. 話題になったことを紹介する。【5分】 ※どんな声かけが大事かを発表してもらう時は、実際に子どもに語りかける口調で言ってもらおう。
2分	全体	5. まとめ【2分】 子どもに「家族の一員」という自覚をもたせるためには、毎日の生活（ことばかけや態度）を大事にしていくことが必要だ。 また、子どもが、食事を作ってくれたり掃除や洗濯をしたりしてくれる家族への感謝の心をもつように、ことばかけをしていくことも大事だ。 家族の一人一人が何らかの役割を果たし、家族が成り立っていることを子どもに伝えていくことを忘れないようにしたい。

【ファイアアクション Yes or No

～あいさつ、手伝いどうしてる～：補助シート】

問い

- ①毎朝、自分（親）から、「おはよう」と言う。
- ②毎朝、子どもから「おはよう」と言う。
- ③子どもは、「行ってきます」「ただいま」を必ず言う。
- ④子どもには、決まった手伝い（役割）がある。
- ⑤子どもは自分の洗濯物は自分で片付けている。
- ⑥食事の時は、必ず、「いただきます」「ごちそうさま」を言う

※問いの内容は、変えてよい。

※この例の中から、数問選んで取り扱ってもよい。

◇全体的な傾向を参加者に知らせるときは、参加者から1～2名
手伝ってもらってもよい。

（●色と◆色のどっちが多いかなどを判断してもらおう。）

セクション3



「深める・見つめる」 親の役割プログラム

☆このような機会
活用できます！

- 学年・学級懇談会
- P T A 研修会
- 教育講演会
- 入学説明会
- 〔さらに小学校では〕
- 就学時健康診断時
- 地区懇談会（地区別研修会）
- 家庭教育学級
- P T A 役員会
- 一日体験入学時

※話したり聞いたりしながら、
「親の役割」を見つめること
ができます。



【プログラム15：ちょっと待ってよケータイ ～わが家の情報モラル～】

☆ねらい：携帯電話やインターネット等のメリットと危険性について考えることを通して、親子での関わり方について考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	携帯電話とルール
時 間	25分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	ワークシート
主な活動	①携帯電話やインターネットのメリットと危険性について考える。 ②携帯電話の所持や使い方、インターネットの活用についての家庭（親子）のルールについて話し合う。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○保護者が子どもより携帯電話のメールやインターネット、ゲーム、ブログ等に熱中している場合もある。そのような場合、子どもだけでなく、保護者の携帯電話等の使い方についても考えるようにしたほうが効果的である。 ○保護者世代も携帯電話がなくてはならないものになっている現状を把握して、プログラムを進行することが大事である。
備 考 (アレンジ等)	○必要であればフィルタリングサービスやフィルタリングソフトの話をしてよい。 ○文部科学省映像資料「ちょっと待ってケータイ」DVDを活用することもできる。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム15：ちょっと待ってよケータイ～わが家の情報モラル～】

時間	形態	講 座 の 流 れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○携帯電話とルール</p>
22分	グループ	<p>2. 携帯電話の所持等の話題について話す。 【7分】</p> <p>※ワークシート参照</p>
	グループ	<p>3. 携帯電話やインターネットのメリットや危険性について考える。 【8分】</p> <p>※ワークシート参照</p>
	グループ	<p>4. 携帯電話の所持や使い方、インターネットの活用についての家庭（親子）のルールについて話し合う。 【7分】</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを決めているところは紹介する。 ・どのようなルールがよいか考える。 （現在所持させている家庭も、所持させていない家庭も一緒に考えを出し合う。） </p>
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> 現代の社会では、どこかの段階で、携帯電話を中心にインターネット等に触れていく可能性が高い。メリットも多いが、危険性も潜んでいることを認識することが大事。「わが家は大丈夫」 危険回避に向けて、親子で話し合うことや家庭と、過信するのではなく、のルールをつくり守っていくことを、それぞれの家庭で実践していくことが大事。 </p>

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「携帯電話とルール」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 活動する

(1)
話題について
話す

(ワークシートの配付)

○まず初めに、携帯電話やインターネットについてグループで話してみてください。今、配付しているワークシートを見てください。そこに話題を3つ示しています。その中から話しやすいことを選んでグループで自由に話してください。

(時間に余裕がある場合は、どんなことが話題になったか紹介してもらおう)

・進行役が話題を提示してもよいし、参加者が自分で考えた話題で話してもよい。

(2)
メリットや危険性について
考える

(ワークシート)

○これから、携帯電話等のメリットや危険性について考えてみましょう。ワークシートを見てください。そこに10の項目が記されています。一つ一つについて、それは、携帯電話等のメリットだと思う場合は○、危険だと思うときは△を、わからない場合やどちらともいえない場合は？を記入してください。

(しばらくしてから・・・)

どのように考えたか、グループの人と出し合ってください。そして、自分が携帯電話等のメディアのいい点や危険性など出し合ってください。

・保護者世代も携帯電話がなくてはならないものになっている現状があることを理解しておく。

(3)
ルールを考える

○携帯電話やインターネットは便利な面も危険な面もあります。どのような使い方をするかということにおいては、家庭での約束事が関係してきます。今、携帯電話や家庭のパソコンのインターネットの使い方などで、家庭(親子)のルールを決めているところは紹介してください。また、決めたルールを子どもが守っていくような工夫や子どもの成長に合わせたルールはどういうルールがいいと思うか等をグループで考えてください。

・現在、所持させている家庭も所持させていない家庭も、一緒に考えを出し合うように声をかける。

3. 意見の紹介

○グループで話題になったことやルール等を紹介してください。
(いくつかのグループの意見を紹介する)

4. まとめ

○現代の社会では、子どもは、成長のどこかの段階で、携帯電話を中心にインターネット等のメディアに触れていく可能性が高いようです。活用の仕方によってはメリットも多いですが、いろいろな危険性も潜んでいることを、認識することが大事です。
「わが家は大丈夫・・・」と過信するのではなく危険回避に向けて、親子で話し合うことや家庭のルールをつくり守っていくことを、それぞれの家庭で実践していくことが大事です。

・必要であればフィルタリングサービスやフィルタリングソフトの話をする。その場合は、まとめの時間を長く設定する。

《参考》



- 「携帯電話・インターネットの利用に関する家庭向け指導資料」
熊本県教育委員会平成23年3月発行 参照
(熊本県教育委員会ホームページよりダウンロードできます)
- 文部科学省映像資料「ちょっと待ってケータイ2」DVD

【ちょっと待ってよケータイ～わが家の情報モラル～：ワークシート】

1 話してみよう。

話 題

- ①自分自身の携帯電話の所持の理由や時期について
- ②自分自身のインターネット利用の状況について
- ③家族の携帯電話やインターネットの活用状況について

2 考えよう。

携帯電話を中心としたメディア活用のメリット、危険性
 ○メリット △危険性 ?わからない、どちらともいえない

項 目	チェック欄	項 目	チェック欄
いつでも電話やメールができる		誤った情報等に惑わされる	
生活体験や直接体験が不足しがちになる		犯罪の被害者や加害者になるおそれがある	
自らを表現し、情報を発信できる		世界中から、いろいろな情報を集められる	
ふれあいや心の交流が希薄になる		学習への意欲や関心が高まる	
コミュニケーションの相手が広がる		個人の情報が流出する	

3 考えよう。

メディアの活用についての家庭（親子）のルール

- ・家庭でつくっているルールの紹介
- ・効果的なルール
- ・約束を守らせるコツ など

【プログラム16: やってみよう、聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～】

☆ねらい：思春期の子どもとのコミュニケーションの取り方（会話）
について考え、子どもと話をするとき役立てていこう
とする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	わが家の聞き方
時 間	25分
人 数	何人でもできる。
活動形態	ペア＋グループ
準備物	補助シート
主な活動	①いろいろな聞き方のロールプレイをやってみる。 ②会話をするときの大事なポイントについて考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○同じような場面設定であれば、例示のシナリオは各自で変更してもよい等、弾力的に扱う。
備 考 (アレンジ等)	○「お薦めしたい聞き方」を出し合い、その聞き方でのロールプレイングを行い、ねらいに迫っていく方法もある。
他プログラムとの関連	スタート（乳幼児期）編：No.6 上手な話しの聞き方～聞き上手は子育て上手～

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「わが家の聞き方」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 子どもとの
会話を振
り返る

○昨日、子どもさんとどんなことを話しましたか。一日の会話で、いくつかの話題があったか思い出してください。その中で一番盛り上がった話題は何でしたか。(しばらく待つ)
一日の中で、どんな時に子どもさんと会話をしていますか。(しばらく待つ)
※時間がある場合は、何人かの例を紹介する。

・子どもとの会話は「昨日」と特定しなくてもよい。

3. ロールプ
レイングを通
して考える

(補助シートの配付)

○これから2人組になって聞き方のいくつかのパターンをやってみましょう。それぞれ親の役と子どもの役になってもらいます。親の聞き方によって子どもはどんな感じを受けるかを体験してください。

初めは、シートのアのパターンです。アは、聞き手が他のことをしながら聞いている場合です。補助シートにセリフが書いてありますが、自分で考えてもいいです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)(ペアを変えても変えなくてもよい)

次はイのパターンです。イは、まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合です。やり方は先ほどと同じです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)(再度ペアを変えてもよい。)

最後にウのパターンです。ウは、聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」とか、「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合です。これもやり方は先ほどと同じです。

(やってみる、次に親子の役を交代してやってみる)

どうでしたか。子ども役の時、親の聞き方でどんな感じがしましたか。

・時間が不足する場合は3つのパターンから1つ選んでロールプレイングをしてもよい。また、話し手が安心できる聞き方を考えて聞くというロールプレイングを取り入れてもよい。

・例示のシナリオを読むことに集中しないように、セリフはかわってもよいことを伝える。

4. 大事なポイントを考える

○これから、会話をするときの大事なポイントについて考えてみましょう。自分の家庭で、特に大事にしたい「わが家の聞き方」は何ですか。このことについて考え、グループの人に紹介してください。今、自分が話を聞くときに大事にしていることやこれから大事にしたいこと等、どちらでもいいです。

・ロールプレイで感じたこととつなげて考えるように声をかける。

○グループで話題になったことや自分の考え等を紹介してください。(進行役が全体に紹介してもよい。)
※紹介してもらったことが、活動3のロールプレイに活かせるような内容だったら、ロールプレイのシナリオを使って紹介してもらおう。

5. まとめ

○話をする時、聞き手の姿勢や態度によって、話し手の気分が左右されることがあります。みなさんはそのような経験はありませんか。
子どもが話しかけてきたとき、子どもが、「話してよかった。」と感じる聞き方(能動的な傾聴)が、親として大事です。
子どもがいろいろな活動等で朝早く登校したり帰宅時間が遅かったりすると、あまり時間を共有することができにくくなこともありますが、親が機会をとらえ意図的に話しかけることも必要なことです。

・子どもとの会話だけでなく、家族や職場などいろいろな人との会話にもつながっていることにふれて話してもよい。

【やってみよう、聞き方エトセトラ～今日からあなたも聞き上手～】

補助シート

◇ロールプレイングの例

ア：聞き手が、他のことをしながら聞いている場合

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。思っていたよりいい結果でね。とてもよかったって思っているんだ。すごいでしょ。

保護者：※携帯をさわったり、本を読んだりしながら、話を聞く。

そう、よかったね。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

イ：まだ話の途中なのに、聞き手が話を切ってしまった場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。

子どもは、小テストの範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。★テストの前には勉強したから、もっとできると思ってたのに……。だから次は、もっと頑張ろうと思っているんだ。

保護者：※子どもの話の途中（★の所から）から言い始める

どうしてできなかったの。勉強がたりないからよ。携帯ばかり触っていたからじゃない。次はいい結果になるようにがんばりなさいよ。

子ども：(自分で考えたセリフを言おう)

ウ：聞き手が、自分の話より先に、「自分の時は～～だった」とか、「◆◆になるんでしょ」と言ってしまう場合

場面：先日あった小テストの結果が返され、思ったよりよくなかったことを話す場面。
子どもは、小テストの範囲を自分なりに勉強したつもりではあった。自分でも、もうちょっといい結果になると思っていた。

子ども：ただいま。

保護者：おかえり。

子ども：今日、この前あった小テストが返ってきたんだ。

保護者：えっ。そうなの。結果どうだった？

子ども：うーん。あんまりよくなかったんだ。テストの前には勉強したから、もっとできたと思ってたんだ。

保護者：そんな結果だったら、補習を受けたり追試になったりするわよ。お母さんの時は、小テストでも結果が悪かったら、親から怒られたり宿題が増えたり大変だったのよ。追試いつなの。もっと真剣に勉強しなくっちゃ。

子ども：追試とかないよ。

(自分で考えたセリフを言おう)

【プログラム17:未来予想S

～10年後の子どもとわたし～】

☆ねらい：自立に向けて成長していく子どもとともに、親も成長していこうとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	10年後のわたし
時間	25分
人数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	ワークシート（使用しなくてもできる）
主な活動	①子どものこと、子どもとの関わりを振り返る。 ②これからの自分について考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○10年後を考えると、あまりにも現実離れした考えだったら、その考えを認めながらも、現実的なことを考えるように声をかける。
備考 (アレンジ等)	○スマイル（小学生期）編プログラムNo.17と本プログラムを用い、「これからの10年」をマインド曲線で表し、ねらいに迫る方法もある。
他プログラムとの関連	スマイル（小学生期）編プログラムNo.17：子育てで広がる夢・喜び～子育ての歩みとこれから～

【プログラム17：未来予想S～10年後の子どもとわたし～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○10年後のわたし</p>
22分	グループ	<p>2. 子どものこと、子どもとの関わりを振り返る。 【5分】</p> <p>○ワークシートをもとに考える。</p> <p>3. これからの自分について考える。 【17分】</p> <p>①10年後の自分や家族を想像する。</p> <p>②10年後、子どもにどうあってほしいか、そのために、今、親としてどう関わっていくか考える。</p> <p>③想像した10年後の自分に向けて、どうしていきたいか考える。</p> <p>④紹介する。</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p>子どもは成長し自立していく。子どもの将来の姿を描くとともに、親も自分の将来の姿を描くことが大事である。そこから、今、親としてどう関わっていくのかを考えることが必要だ。</p>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「10年後のわたし」をキーワードに講座を進めていきたいと思ひます。

・キーワードの提示。

2. 子どもの
ことを振り返る

(ワークシート配付)

○まず初めに、子どもさんのことや子どもさんとのかわりについて振り返っていただきたいと思ひます。

ここ(ワークシート)に6つの項目があります。このことについて、自分はどうか、ということグループの人に紹介してください。

※時間がある場合は、何人かの例を紹介する。

・ワークシートを使用しない場合は、振り返りの視点を広用紙やプレゼンを使って提示する。

3. これからの
自分を考える

○今から、次の3つのことについて想像したり考えたりしていただきたいと思ひます。

1点目は、10年後の自分や家族がどうしているかです。

2点目は、10年後、子どもにどうあって(なって)ほしいか、そのために、今、親としてどう関わっていくか考えてください。

そして、3点目に、10年後の自分に向けて、どうしていきたいか考えてください。

最初、1人で考えていただいて、その後、グループで考えたことや想像したことを紹介してほしいと思ひます。(しばらく待つ)

グループで紹介しあってください。3点のことの中から話しやすいことから話して構いません。

(しばらく待つ)(グループでどんなことが話題になっているか聞く)

・10年後を考えるとき、あまりにも現実離れした考えだったら、その考えを認めながらも、現実的なことを考えるように声をかける。

・意見の紹介までの時間、グループで考えを出し合う時間を時々知らせると、参加者自身が見通しをもつことができ、効果的である。

○グループで話題になったことやご自分の考えなどを紹介してください。

(1人が3点について意見を紹介してもいいし、どれか1つについて紹介してもいいようにすると話しやすい。)

4. まとめ

○子どもは日々成長し、いつの日にか自立していきます。日々の生活の中で、子どもの10年後について考えることがあまりなかったかもしれません。しかし、子どもの将来の姿を描くとともに、その子どもの姿に向けて、今、親としてどうかかわっていくけばいいかを考えることも必要なことです。

また、今は子育て真っ最中だと思いますが、子どもが自立したときの自分のこと、自分の将来の姿を描くことも大事なことだと思います。

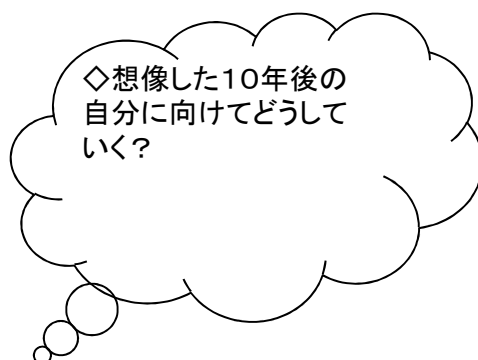
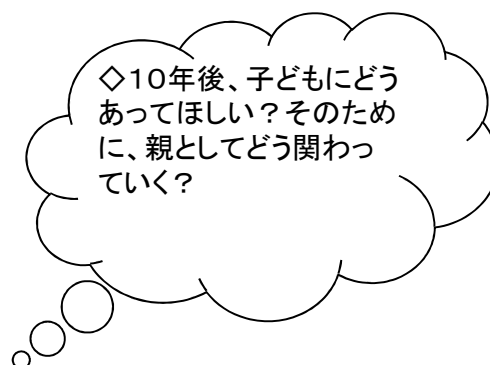
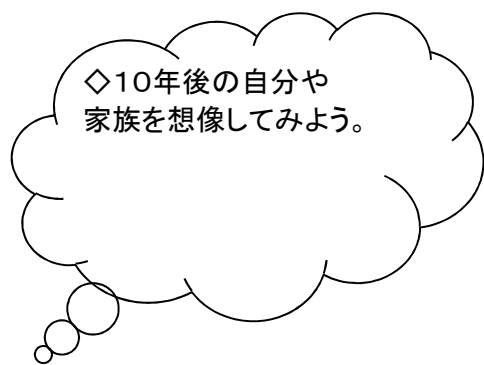
・過保護、過干渉、放任、親ばなれ、子ばなれ等の言葉から、親としての関わり方について考えることを、まとめとしてもよい。

【未来予想S ～10年後の子どもとわたし～ :ワークシート】

◆子どものこと、子どもとの関わりを振り返ろう！

1	子どもの友だちの名前が3人以上言える。
2	進路をどう考えているかわかる。
3	子どもと同じ話題で話せる。 (テレビ番組、芸能人、ニュース、スポーツ、学校のこと等)
4	学校でのことを話す。(自分から話す、聞いたら答える)
5	子どもの机の上を見たことがある。
6	授業参観や懇談会に参加する。

◆想像してみよう！



【プログラム18：子どもの夢サポート ～進路選択と親のかかわり～】

☆ねらい：子どもの進路選択のとき、親としてどうかかわればよいかという考えをもつとともに、子どもと一緒に考えていことする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	子どもの進路
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	なし
主な活動	①自分の進路選択を振り返る。 ②子どもの進路選択に際して、親としてのかかわり方について考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○進学や就職に対する考え方は、いろいろあることを押さえる。 ○男女共同参画の視点を大事にする。
備 考 (アレンジ等)	○学校のキャリア教育の保護者向けの取組と関連を図って本プログラムを行うと、より高い効果が期待できる。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No.17 未来予想S～10年後の子どもとわたし～

【プログラム18：子どもの夢サポート～進路選択と親のかかわり～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○子どもの進路</p>
27分	グループ	<p>2. 自分が進路選択をするとき、どんなことを考えたか。また、そのとき、家族はどのような態度、かかわり方だったか思い出す。 【10分】</p> <p>3. 子どもの進路選択に際して、親としてどうかかわっていくといいか考える。 【17分】</p> <p>(1) グループで考えを出し合う。</p> <p>ア：子どもの進学・就職などの進路選択のとき、親として大事にするもの 例：・子どもの気持ち（やりたいこと、友だちがいること） ・先生の意見 ・学費等の支出 など</p> <p>イ：子どもが将来、「働く」「自立する」ために、今、親としてできることはどんなことか</p> <p>(2) 話題になったことを紹介する。</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">子どもの職業や進路選択にあたり、親としてどう関わっているか。親の考えや気持ちを押しつけすぎているか、逆に、任せっぱなしになっていないか。</p> <p>若者の就職にまつわる問題は大きく、新しい情報を取得していくことも大事。複数の情報源から情報を収集したり吟味したりし、子どもから相談を受けた時、子どもが「話してよかった」という思いをもつように、親として、大人として答えていく姿勢をもちたい。</p>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「子どもの進路」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 自分のことを
振り返る

○まず初めに、自分自身が進学や就職などの進路を選択するとき、どんなことを考えたか、思い出してください。また、そのとき、家族はどのような態度、かかわり方でしたか。話せる範囲で構いませんので、グループの人に紹介してください。
※時間がある場合は、何人かの例を紹介する。

・進学や就職等個人情報に関わることなので、可能な範囲で話すとよいことを確認する。

3. 親としての
役割を考える

○これからは、子どもの進路選択に際して、親としてどうかかわっていけばいいか考えてみたいと思います。まず、子どもの進学や就職などの進路選択のとき、親として大事にするものは何かを考えてください。例えば、やりたいことや、友だちがいることなどの子どもの気持ちだったり、先生の意見、または、学費等の支出、自宅から遠いか近いかなどが考えられると思います。ほかにもあると思います。皆さんは、自分は、何を大事にすると思いますか。しばらくの時間、グループで考えを出し合ってください。

(しばらく待つ)

どうですか。どのような考えが出されましたか。

(いくつか紹介する)

もう1つ考えていただきたいことがあります。それは、子どもが将来、「働く」「自立する」ために今、親としてできることはどんなことかということです。これも先ほどと同じようにグループで自由に考えを出し合ってください。

(しばらく待つ)

・職業への偏見や男女共同参画の視点等が大事にされない発言等があった場合は、進行役の考えをそのグループに伝える。

・意見交換が進んでいないグループには、身辺自立、社会的自立、職業自立、それぞれの視点から考えてもよいことを伝える。

○グループで話題になったことやご自分の考えなどを紹介してください。
(「進路選択で大事にしたいもの」とあわせて紹介してもいいことを伝える)

4. まとめ

○子どもの職業や進路選択にあたり、親としてどうかかわっていますか。また、かかわっていこうと思っていますか。進路選択の時期になると、つい親の考えや気持ちを押しつけすぎてしまったり、逆に、「子どもの気持ちを尊重する。」と、任せっぱなしになってしまったりしていませんか。
今、若者の就職にまつわる問題は大きく、新しい情報を取得していくことも大事です。複数の情報源から情報を収集したり吟味したりし、子どもから相談を受けた時、子どもが「話してよかった」という思いをもつことができるように、親として、大人として答えていく姿勢をもちたいですね。

・学校の進路指導との連携を図るとより効果的である。また、本講座を展開するとき、就職や進学に関する情報を参加者に提供するの也不错。

【プログラム19：子どもの悩み熟議 ～どんな悩み、誰に相談～】

☆ねらい：思春期の子どもはどんな悩みをもっているか、どのように解決しているかを考えることを通して、親（大人）として子どもとどう向き合えばいいかを考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	悩みと相談相手
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	模造紙（広用紙）（グループに1枚）、マーカーペン（各グループに黒、赤、青の3色）
主な活動	①子どもの悩みや相談相手について考える。 ②自分の学生時代の悩みについて振り返る。 ③親の関わり方を考える。 ④グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○中学生、高校生の悩みとしては、容姿、異性、人間関係等に関するものが多い。デートDVや高校進学、中途退学率等の話題を出すときは、新しいデータを用いるとともに、進行役が十分理解した上で、参加者にデータを示す。
備 考 (アレンジ等)	○「どんな悩みがあるか」を考える活動は、付箋紙等を用い、個人作業にすることもできる。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：No22聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～

【プログラム19：子どもの悩み熟議～どんな悩み、誰に相談～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○悩みと相談相手</p>
27分	グループ	<p>2. 子どもがどんな悩みをもっているかを考える。 【7分】</p> <p>○グループで思いつくだけ考え、模造紙（広用紙）に書き出す。 ※悩みは具体的に考えた方がよい。 例、太っている、好きな人がいる、友だちとけんかをした 部活でレギュラーになれない、成績がさがった</p> <p>3. 悩みの解決方法や相談相手について考える。 【5分】</p> <p>○上記2の活動で書き出した悩みの相談相手を考え、分類する。 例：自己解決・・・黒○をつける 友だちに話す・・・赤○をつける 先生に話す・・・青○をつける 家族に話す・・・黒◎をつける</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>相談相手や解決方法は複数あってもよい。</p> </div> <p>4. 自分が中学（高校）生だったころ、悩んだことや相談相手等はどうか振り返る。 【5分】</p> <p>5. 親のかかわり方で大事なことは何か考える。 【10分】</p> <p>※子どもの悩みに関連あることで、知りたいこともあわせて話し合ってもよい。 例：デートDVのこと、高校進学と中途退学率等のこと など ○話題になったことを紹介する。</p>
2分	全体	<p>6. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>子どもの悩みにはいろいろある。中学生、高校生になると、今まで以上にまわりを気にしたり、深く悩んだりすることもあるようだ。子ども自身が自分を追い詰める前に相談できる家庭の雰囲気をつくっておくことが大事。</p> <p>子どもが話をしたときは、真剣に聞こうとすることが大事であり、注意すべき点については子どもに遠慮することなく毅然とした態度で接することが大事である。</p> <p>デートDV等、新しい課題も生じているので、親が関心をもつことも必要だ。</p> </div>

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの確認

○今日は、「悩みと相談相手」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 悩みについて考える

○まず初めに、今、子どもがどんな悩みをもっていると思うか、グループの皆さんで協力し合って、思いつくだけ広用紙（模造紙）に書き出してください。悩みは具体的に考えてください。例えば、「太っている」「好きな人がいる」「成績がさがった」等です。自分の子どもさんに、悩みはないだろうと思われる方は、一般的に考えると、◆◆な悩みがあるだろうと、考えてください。

・グループの誰か1人が書く係をしてもいいし、ペンを1人1本持って、同時に書き始めてもよい。

3. 親としての役割を考える

○次に、悩みの解決方法や相談相手について考えてみましょう。今、グループで書き出してもらった悩みの相談相手は誰だと思えますか。それぞれの悩みの横に○をつけてください。自己解決するであろうと思う場合は、黒で○をつけてください。相談相手が友だちだと思う場合は、赤で、そして、先生が相談相手と思う場合は、青で○をつけてください。家族の場合は黒◎をつけてください。相談相手や解決方法は1つとは限りませんので、黒の◎、赤の○と2つになってもいいです。

・活動の説明の時、実際に黒や赤で○をつけるやり方の例を見せた方が、参加者にとって、わかりやすい。

4. 自分の経験を振り返る

○自分が中学（高校）生だったころ、どんなことで悩んだか、また、それは誰に相談したりどうやって解決したりしたか、思い出してください。話せる範囲でよいので、グループの人に紹介してください。

・話せないこと等は話さなくていいことを参加者に伝える。

5. 親のかかわり方を考える

○子どもの悩み、相談相手を考え、自分の経験を思い出していただきました。これからは、思春期の子どもをもつ親として、子どもへのかかわり方で大事なことは何かということグループの皆さんで考えてほしいと思います。話題が難しい場合は、子どもたちの悩みや生活に関連あることで、知りたいこと等でもいいです。例えば、「デートDVという言葉を知りたけど何のことだろう。」「高校進学と中途退学について」等です。

・意見の紹介までの時間、グループで考えを出し合う時間を時々知らせると、参加者自身が見通しをもつことができ、効果的である。

○グループで話題になったことやご自分の考えなどを紹介してください。
(いくつかのグループで話題になったことを全体で紹介する。)

・進行役の子育ての経験話や自分自身の体験（自分が学生だった頃の悩みや相談相手等のこと）等をまとめの話としてもよい。

6. まとめ

○子どもの悩みは、友だちや先輩後輩との人間関係のことや異性のこと、成績のこと等いろいろあるようです。中学生、高校生になると、今まで以上にまわりを気にしたり、深く悩んだりすることもあるようです。子ども自身が自分を追い詰める前に相談できる家庭の雰囲気をつくっておくことが大事だと思います。

子どもが話をしたときは、結論を急ぐのではなく、真剣に聞こうとすることが大事です。また、注意すべき点については子どもに遠慮することなく毅然とした態度で接することが親として、大人として大事なことだと思います。

デートDV等、新しい課題も生じているので、親が関心をもつことも必要です。

・デートDVによって女性、女子学生が被害にあったり悩んだりしている現状があることを進行役が知っておくことも大事。

【プログラム20：感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～】

☆ねらい：思春期の子どもの気持ちを考えることを通して、子どものいろいろな思いや感情があることを知り、子どもとのかかわり方を考える。

《プログラムの概要》

キーワードの例	子どもの気持ち
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ＋個人
準備物	ワークシート
主な活動	①自分が中学生、高校生だった頃を思い出す。 ②「感情ランキング」をする。 ③思春期の子どもとのかかわり方を考える。 ④グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○答え（正解）があるのではないので、自分の経験や子どもの様子をもとに、自分なりの考えをもつことが大事であることを伝える。
備 考 (アレンジ等)	○講座の時間にあわせて、ランキングの方法はいろいろできるので、工夫することが大事。 例1「喜怒哀楽」について、それぞれに3つずつ選ぶ。 例2「喜怒哀楽」の中から1つ選んで、それについて3つ考える。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム20：感情ランキング～子どもの気持ちになってみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○子どもの気持ち
27分	グループ	2. 自分が中学（高校）生だった頃を思い出す。【5分】 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい思い出 ・苦い思い出 ・好きだった◆◆（教科、芸能人、歌 など） ・その頃よくやっていたこと（夢中だったこと） ・うれしかったことや悲しかったこと
	個人	3. 「感情ランキング」をする。【10分】 (1) 子どもの感情（喜怒哀楽）について、ランキングする。 〈ランキングの方法・・・時間等を考慮してやり方を工夫する〉 ア：「喜怒哀楽」を3つずつ選ぶ方法 イ：「喜怒哀楽」の中から、自分が考えやすいものを選び、考えを深める方法
	グループ	(2) グループで出し合う。
	グループ	4. 思春期の子どもとのかかわり方で大事だと思うことを考える。【12分】 (1) グループで意見交換をする。
	全体	(2) 話題になったことを全体に紹介する。
2分	全体	5. まとめ【2分】 [ポイント] 思春期の子どもの特徴の一つとして、感情をうまくコントロールできにくいこともあげられる。私たち（大人）もその時期を乗り越え、今がある。 子どもが今、どのような気持ちなのかをわかろうとすることや「関わる」「見守る」のバランスを考えることを大事にしたい。

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「子どもの気持ち」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 自分のこと
を思い出す

○まず初めに、自分が中学（高校）生だった頃のことを思い出していただきたいと思います。例えば、楽しかったことや苦い思い出、好きだった◆◆（教科、芸能人、歌など）、その頃よくやっていたこと（夢中だったこと）、嬉しかったことや悲しかったことなど何でもいいです。

・この活動に時間をかけすぎないように気を付ける。
・話せる範囲で話すようお願いする。

3. 感情ラン
キングをする

（ワークシート配付）

○次に、子どもの感情（喜怒哀楽）について考えてみたいと思います。ワークシートを見てください。子どもが「うれしい気持ちになる時」はどんなときか考えてください。キーワードの中から3つ選んで、ワークシートに記入してください。そこに示されていない場合は、自分で考えたキーワードを考えて書かれてもいいです。同じように、「イライラしたりムカムカする時」「悲しい気持ちになる時」「楽しい気持ちになる時」はどんな時か、それぞれ3つずつ考えてください。同じキーワードは何回使ってもいいです。また、考えやすいところから取りかかってもいいです。それでは、5分間ぐらいで記入をお願いします。

（しばらく待つ）

それでは、できたところまでをグループの人に紹介してください。聴いているときは、自分と同じ考え、違う考えはどこかなということを考えながら聴いてください。

（しばらく待つ）

どうでしたか。同じキーワードでも違う気持ちのところに入れたり、自分が考えなかったキーワードがあったりしたと思います。

・時間が不足する場合は、喜怒哀楽の中から1つ選びそれについて考えるやり方等もあるので、進行役が判断し、工夫する。

・「考えたところまでを紹介しあう」とした方が、参加者の負担感が軽減される。

4. 親の関わり方を考える

○これからは、思春期の子どもとの関わり方で大事だと思うことについて考えていただきたいと思います。これまでの活動でいろいろ考えていただいたことを思い出しながら、思春期の子どもとの関わり方で、「自分（家庭）が大事にしていること」や「これからこんなことを大事にしたいな」と思うことなどについて、意見交換をお願いしたいと思います。

（しばらく待つ）

○グループで話題になったことやご自分の考えなどを紹介してください。

（いくつかのグループで話題になったことを全体で紹介する。）

・思春期の子どもでも積極的に親にいろいろな事を話す子どももいれば、自分からは話さないという子どももいるということを確認すると、「うちの子だけかも・・・」という不安感が軽くなる。

5. まとめ

○一般的に、思春期の子どもの特徴の一つに、自分自身の感情とうまく付き合っていくことがまだ、十分でないこともあげられます。私たち（大人）もそういう思春期の時期を乗り越え、今があります。今、その当時のことを思うと不思議な感じがしたりしますが、その当時は自分自身にもよくわからなかったこと（感情の起伏等のこと）もあると思います。子どもも私たちの時と同じかもしれません。私たち大人（親）は、子どもが今、どのような気持ちなのかをわかろうとすることと、「関わること」と「見守ること」のバランスを大事にしたいと思います。

・進行役の子育ての経験話や自分自身の体験（思春期の頃の話）等をまとめの話としてもい。

【感情ランキング～子どもの気持ちになってみよう～ワークシート】

◇「感情ランキング」をやってみよう。

〈やり方〉

①子どもの感情（喜怒哀楽）の場面を3つずつ選ぶ。

②キーワードを書く。

キーワード	内 容 例	
成績	成績があがったとき (結果がよかったとき)	成績がさがったとき (結果が悪かったとき)
授業	授業が楽しいとき 学習内容を理解したとき	授業がつまらないとき 学習内容が理解できないとき
部活	大会等で結果を残したとき	大会等で思うような結果が残せなかったとき
友だち	友だちと楽しく遊んだとき (遊びの約束等をしたとき)	友だちとうまくいってないとき (約束等を断われたとき)
先輩後輩	先輩や後輩から頼られたとき	先輩や後輩との関係がうまくいってないとき
認め	先生や友だちにほめられたとき (認められたとき)	先生から叱られたとき
家族	家族からほめられたとき (認められたとき)	家族から叱られたとき
異性	異性とのつきあいがうまくいっているとき	異性とのつきあいで悩んでいるとき
購入	欲しいものを買ったとき	欲しいものが買えなかったとき
励まし	人から励ましてもらったとき	落ち込んでいたけど声をかけてもらえなかったとき
からだ	からだのことでうれしい変化があったとき	からだのことで悩んでいるとき
理由なく		わけなくイライラする

書き方の例

《うれしい気持ちになる時》
がどんなときか、3つ選んだ場合の記入例



うれしい気持ちになる時
【喜】

友だち

部活

異性

うれしい気持ちになる時
【喜】

イライラしたりムカムカする時
【怒】

悲しい気持ちになる時
【哀】

楽しい気持ちになる時
【楽】

★考えよう！

思春期の子どもとの関わり方で大事だと思うことについて、意見交換しましょう。

【プログラム21：親の役割3か条 ～親の目・子の目～】

☆ねらい：思春期の子どもをもつ親の役割を考え、よりよい親子関係をつくっていかうとする気持ちを育てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	親の役割3か条
時間	30分
人数	何人でもできる。
活動形態	グループ
準備物	付箋紙（1人15枚程度）、ワークシート（グループ数、使いやすい大きさに拡大して使用）
主な活動	①子どもの立場になって、「親とのかかわり方」について考える。 ②自分の経験を思い出す。 ③親の役割3か条を考える。 ④グループで考えたことを紹介する。
気を付けること	○「子どもにとって、やってほしいかかわりやあまりやってほしくないかかわり」を考えると、「自分と子ども」のかかわりでも、そうでなくてもよいという問いかけで活動を行った方が、多様な意見が期待できる。また、「自分と子ども」と限るより、考えを出しやすい雰囲気になる。
備考 (アレンジ等)	○付箋紙に個人が考えたことを書く個人の活動ではなく、模造紙（広用紙）にグループで考えた意見を書き出す方法もある。その場合は、分類ではなく、「色の印を付ける」等に変更するとよい。
他プログラムとの関連	スマイル（小学生期）編：No18わが家で大切にしたいこと

【プログラム21：親の役割3か条～親の目・子の目～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。 【1分】</p> <p>[キーワード] ○親の役割3か条</p>
27分	個人 グループ	<p>2. 子どもの立場になって、「親とのかかわり方」について考える。【10分】</p> <p>(1) 「子どもにとってやってほしいかかわり」と「子どもにとってあまりやってほしくないかかわり」について、思いつくだけ付箋紙に書き出す。</p> <p>(2) 書いたことを出し合い、分類する。</p>
	グループ	<p>3. 自分の経験を思い出す。 【5分】</p> <p>○自分が、中学（高校）生の頃、親のかかわりで嬉しかったことや嫌だったことを出し合う</p>
	グループ 全体	<p>4. 親の役割3か条を考える。 【12分】</p> <p>(1) 「これだけは譲れない約束事」は何かについて考える。</p> <p>(2) 意見交換をし、グループで「親の役割3か条」をまとめる。</p> <p>(3) グループで考えたことを全体に紹介する。</p>
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>子育て四訓として言われていることに、「乳児期はしっかり肌を離すな、幼児は肌を離せ手を離すな、少年は手を離せ目を離すな、青年は目を離せ心を離すな」と言われている。</p> <p>子どもの成長にともなって、親がかかわりすぎると子どもは、「嫌だな」と煙たがることもあるかもしれないが、親子（家庭）のルールでこれだけは譲れないという部分をしっかりとつことが大事。また、子どもがいくつになっても「愛としつけ」の両面を大事にしていくことが必要。</p> </div>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「親の役割3か条」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 子どもの立場で考える

(付箋紙、ワークシート配付)

○まず初めに、子どもの立場になって、親とのかかわり方について考えてみたいと思います。「子どもにとってやってほしいかかわりとあまりやってほしくないかかわり」はどんなかかわり方だと思いか、思いつくだけ付箋紙に書いてください。付箋紙1枚には1つのことを書き、できるだけ具体的に書いてください。自分と子どものかかわり方のことを書いてもいいし、一般的に考えると〇〇だろうと思ったことを書かれてもいいです。3分間で思いつくだけ書いてください。

(しばらく待つ)

○次に、付箋紙に書いていただいたことをグループの皆さんに紹介しながら、子どもにとって、やってほしいかかわりかあまりやってほしくないかかわりなのかを考え、分類してください。

(しばらく待つ)

どうでしたか。分類した結果、どちらのかかわりの方が多く考えられましたか。

・具体的な例を示すと参加者は考えやすい。

・付箋紙は1人15枚程度配付するが、たくさん書く人もいるので予備も用意しておく。

・いくつかの例を使って分類の仕方の見本を示すと、参加者は、やり方を理解しやすい。

3. 自分の経験を思い出す

○これからは、自分の経験を思い出してほしいと思います。みなさんが、中学(高校)生の頃、親の関わりで嬉しかったことや嫌だったことがあったと思います。そのことを思い出していただいて、グループの方に紹介してください。嬉しかったことや嫌だったことのどちらでも結構ですので、話せる範囲で、紹介してください。

(しばらく待つ)

○どうでしたか。

グループの方の考えや意見を聞いて、「わかる」「同じ」など共感していただくことがあられたと思います。

・活動の時間を知らせると参加者自身が活動の見通しが持てる。

4. 親の役割について考える

○最後に、「親の役割3か条」について考えてみたいと思います。その前に、子どもさんとの約束やお願い事で、「親としてこれだけは譲れない約束、お願い事」はありますか。グループの方に紹介してください。「今まで考えたこともなかった。」と言われる方もいらっしゃるかもしれません。その場合は、「〇〇を頼まれたら、多分『いいよ。』とは言わないだろう」と思うものを紹介してください。子どもが、中学生（高校生）の間は・・・という期間限定のものでもいいです。

（しばらく待つ）

○今紹介していただいたことも参考にしながら、グループで「親の役割3か条」を考えてください。

（しばらく待つ）

・譲れない約束を紹介する活動で、意見があまり出ていないようなときは、次の活動に時間をかけてもよい。

○グループで考えた「親の役割3か条」を紹介してください。3か条とも紹介してもいいですし、これがお薦めという1か条を紹介いただいてもいいです。

5. まとめ

○子育て四訓として言われていることに、「乳児期はしっかり肌を離すな、幼児は肌を離せ手を離すな、少年は手を離せ目を離すな、青年は目を離せ心を離すな」と言われています。子どもの成長にともなって、親がかかわりすぎると子どもは、「嫌だな。」と煙たがることもあるかもしれないが、親子（家庭）のルールでこれだけは譲れないという部分をしっかりとつことが大事です。また、子どもがいくつになっても「愛としつけ」の両面を大事にしていくことが必要です。

・進行役の子育て経験話や自分自身の体験（中学・高校の頃の親とのかかわりのこと）等をまとめた話としてもよい。

【親の役割3か条～親の目・子の目～：グループワークシート】

子どもにとってやってほしいかかわり



子どもにとってあまりやってほしくないかかわり



◇グループで考えた
親の役割3か条



【プログラム22：聞いて、聞いて、わたしの悩み ～子どもの異性とのつきあい方～】

☆ねらい：悩みに答える活動を通して、いろいろな考えを知り、子育てに対する自分の考えの幅を広げようとする気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	悩みの共有
時 間	4 5 分
人 数	1 2 人以上（9 人でもできる）
活動形態	グループ（1 グループは4 人がよいが、9 人の場合は1 グループは3 人になる）
準備物	悩みリスト（人数分）、ストップウォッチ（進行用1 個）、机上札（A B C D）→それぞれグループ数
主な活動	①「悩みリスト」をもとに、相談者になったりアドバイザーになったりする。 ②アドバイスを受けたことをもとに話し合う。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○「悩みリスト」は、事前にアンケートを行うなど実態に合ったものを用いるとより効果的である。しかし、それが個人を特定できる悩みにならないようにする。
備 考 （アレンジ等）	○悩みをもつ保護者や子どもの痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を、一人一人がもつことが大事。
他プログラムとの関連	ステップ（中高生期）編：N o 1 9 子どもの悩み熟議～どんな悩み・誰に相談～

【プログラム22：聞いて、聞いて、わたしの悩み
～子どもの異性とのつきあい方～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。 【1分】 [キーワード] ○悩みの共有
42分	全体	2. 「悩みリスト」をもとに相談者になったりアドバイザーになったりする。 【25分】 (1) 方法を知る。 〈3分〉 ①進行役が相談者Aを紹介する。 ②Aの相談に対して、B, C, Dは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ③進行役が相談者Bを紹介する。 ④Bの相談に対して、C, D, Aは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ⑤このように、C, DもA, Bと同じように行う。
	全体	(2) 聞くときの配慮事項を確認する。 〈2分〉 ・相手を見てうなずきながら聴くなど、聴き方を工夫する。
	グループ	(3) グループ内でやってみる。 〈20分〉
		3. グループ替えを行う。(同じ机上札の人で集まる。) 【1分】
		4. アドバイスされたことを紹介しあう。 【10分】
	全体	5. グループの代表が、特に印象に残った意見を紹介する。 【6分】
2分	全体	6. まとめ 【2分】 [ポイント] 子どもの成長とともに悩みも多様化、複雑化してくる。子どもの悩みを知ったとき、親としてどう対応したらいいか、子どもの気持ちにどう向き合うかが大事なポイントだ。 「うちの子に限って・・・なことはない」と過信するのではなく、子どもの日頃の様子をしっかりと見つめながら、子どもの変化に気付く親でありたい。子育てに関する悩みは誰もがもっている。悩みを話し、考えを聴くことによって、気付かなかった考えに出会うこともある。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの確認

○今日は、「悩みの共有」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 活動する

(1) 方法を知る

(机上札と悩みリストの配付)

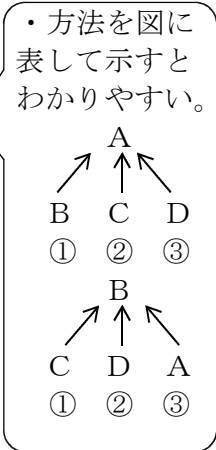
○まず、グループの中で、だれが「相談者A」の役になるか、だれが「相談者B」の役になるか・・・(C、Dも)を決めます。

○次に、進め方を説明します。進行役が相談者を紹介します。

Aの役の方は、悩みリストに書かれているAの悩みをグループの人に相談してください。相談を受けたB、C、Dの役の方は、Aさんの悩みに対して感じたことや解決策など、1人1分程度話してください。

初めはBさんからです。私が「交代です」と言ったら、Cさんが話します。最後にDさんです。そこまでいったら、次はBさんが悩みを相談します。その悩みに対して、Cさん、Dさん、Aさんがアドバイスします。これを繰り返します。

全員が終わったら、Aさんグループ、Bさんグループ・・・とグループ替えをし、どんなことをアドバイスしてもらったかを紹介します。どうですか。やり方は、わかりましたか。私(進行役)が時間を計り、進行していきますので、各グループともあわせてください。



(2) 聞き方の確認

○ここで、聴くときのことを確認したいと思います。今、説明したように、悩みに対してアドバイスするという活動を交代しながらやっていきます。相手の話を聞くときに、大事なことは何だと思いませんか。

(しばらく待つ)

そうですね。

話し手を見る、うなずく、あいづちをうつなど話し手が安心できる聴き方があります。ここでも、そのことを意識してほしいと思います。

・聴くときの留意点を提示すると、参加者は意識しやすい。

(3) 活動する

○それでは、悩みリストを見てください。自分の役のところを読み、その役になって、自分なりの考えをもってください。また、自分の役以外のところで、何とアドバイスするかも考えてください。後で、実際やりながら考えてもいいです。

(しばらく待つ)

・アドバイスする時、だれかの批判にならないようにすることを確認する。

- それではやってみましょう。
 - 相談者Aさん、どんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Aさん役が話す)
 - 相談者Aさんに対してBさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次にCさん、アドバイスしてください。
(1分計る)
最後にDさん、アドバイスしてください。
(1分計る)
 - Aさんは、みなさんにお礼の言葉をお願いします。
 - 相談者Bさん、あなたにはどんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Bさん役が話す)
 - 相談者Bさんに対してCさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次に、Dさん、アドバイスしてください。
(1分計る)
最後にAさん、アドバイスしてください。
(1分計る)
- ※同じように相談者Cさん、相談者Dさんも進める。**

・アドバイスする時間は1分間とするが、短くなってもよいことを伝え、安心感をもたせる。

3. グループ替え

- 今からグループ替えをします。
Aさん役の人は◆◆に、Bさん役の人は★★に、Cさん役の人は・・、Dさん役の人は・・に集まってください。(机上札を持って)
(移動)

・机上札をもって移動すると参加者が集まりやすい。

4. グループの話し合い

- 前のグループの時、自分の相談に対して、どんなアドバイスもらったかを紹介してください。また、それぞれの話を聞いて感じたことや思った事など話し合ってください。
(しばらく待つ)

・特に印象に残ったことなどを紹介してもよい。

5. 意見の紹介

- グループの意見の紹介にうつります。
グループの代表の人は、特に印象に残ったアドバイスやグループで話題になったことなどを、他のグループの人たちに紹介してください。
(A～Dグループの代表が1人ずつ紹介する)

・それぞれの発表の前に、もう一度どんな相談だったか、悩みリストを進行役が読むと、発表とつながりやすく効果的である。

6. まとめ

- 子どもの成長とともに悩みも多様化、複雑化してきます。子どもの悩みを知ったとき、親としてどう対応したらいいか、子どもの気持ちにどう向き合うか等が大事なポイントです。
「うちの子に限って・・・なことはない」と過信するのではなく、子どもの日頃の様子をしっかり見つめながら、子どもの変化に気付く親でありたいですね。子育てに関する悩みは誰もがもっています。悩みを話し、考えを聴くことによって、気付かなかった考えに出会うこともあります。親として幅の広い考えをもつことが大事なことだと思います。

【聞いて、聞いて、わたしの悩み～子どもの異性とのつきあい方～】

◇悩みリスト

《相談者A》（高校2年生の男子をもつ父）

携帯電話を持たせるときに、「自分の携帯代は自分で払うように・・・。」と、子どもと約束をした。そのためアルバイトを始めたのだが、帰宅時間は遅いし、ごはんを食べているときでも携帯電話を離さない。変なサイトを使っているようではないが、携帯代も月2万円ぐらいかかっている。最近、だんだんとおしゃれや異性に興味をもっているようだし、いつ変なサイトを利用するかもわからない。携帯代を払う約束で始めたバイトだが、このまま続けさせていいか悩んでいる。

《相談者B》（高校1年生の女子をもつ母）

高校生になっておつきあいしている彼がいるらしく、服装や体型をととても気にするようになった。相手がどんな人なのか聞いても教えてくれない。あるとき、娘が親密に肩を寄せ合っている写真を偶然に見てしまったが、見なかったことにし、何も言わなかった。同じ頃、娘が、「友だちのところに泊まりに行きたい」と言った。とりあえず思いつくままの理由で外泊はさせなかったが、彼とのつきあい方がどんどんエスカレートするのではないかと心配している。

《相談者C》（中学2年生の女子をもつ母）

子どもの進路のことで悩んでいる。子どもは小さい子が好きで、近所の子や親戚の子などよくかわいがっている。それはいいことだと思うが、娘は「高校は行ってもいいけど、早く自分の子どもがほしい。『友だち親子』をしたい。」と言う。交友関係は広く、男女を問わず友だちと遊んでいる。学習は今までとあまりかわらずやっているようで、特に変わったことはないと思う。進路選択はまだ先のことだが、もっと現実的な進路を考えてほしいと思っている。こんなとき子どもにどんな話をすればいいのか教えてほしい。

《相談者D》（中学2年生の男子をもつ母）

この前息子の部屋を片づけていたら、グラビア雑誌がでてきた。最近、好きな女の子がいるらしく、よく部屋で携帯電話でしゃべっている。何を話しているのかわからず、気になっている。眉を整えたりおしゃれに興味をもったりしている。これも子どもの成長過程の1つだと思うが、グラビア雑誌を見ている子どもを思うと複雑な気持ちにもなり、どんな女の子とつきあっているのか、どんなつきあい方をしているのか、心配はつきない。どうするといいのか教えてほしい。

MEMO

くまもと「親の学び」プログラム～子育ては親育ち～

ステップ（中高生期）編

作成検討委員

- 赤星 美智子（甲佐町主任児童委員）
- 古賀 倫嗣（熊本大学教育学部 副学部長）
- 柴田 恒美（NPO法人子育て談話室 理事長）
- 田中 久美子（熊本県私立中学高等学校振興協議会 代表）
- 中村 友花理（熊本県公立高等学校PTA連合会 理事）
- 日・ 亜由美（熊本県PTA連合会 副会長）
- 福島 三徳（山鹿市立来民小学校 校長）
- 牧野 健二（熊本県立甲佐高等学校 校長）
- 三角 幸三（宇城市教育委員会 学校教育審議員）
- 柳 宗一郎（八代白百合学園高等学校 校長）

職名は平成24年3月現在